

p. 89 目次

6. 11 競技会手順

6. 19 索引

ルール番号

すべてのISSFルールはルール番号手順により4段階の番号(例: 6. 10. 3. 5)を限度に番号付けられている。

サブレベルのルールの追加が容易になるように中黒点で表記したルールも使用している。中黒点のルールを参照する場合はルール番号の後に中黒点ルールの順番を示すアルファベットを付けてある(例: 6. 10. 3. 5 d ルール6. 10. 3. 5の4番目の中黒点ルールという意味)。

※については国内適用規定も参照のこと。

追は、国内適用のために追加した項目であり、国内適用規定を参照のこと。

p. 90 定義と略号

選手 (Athletes)	スポーツ競技会の競技者または参加者。射撃スポーツにおける競技者は時には選手と呼ばれる。
---------------	---

本射 (MATCH Shots)	採点され記録される射撃弾。選手の得点として数えられる射撃弾
------------------	-------------------------------

p. 91

6. 1. 1 ISSFルールの目標と目的  
ISSFはISSFの認可を受けて行われる射撃競技を監督統括する

6. 11 競技会手順 (6. 17のファイナル競技の手順も参照のこと)

6. 19 ISSF ドレス コード

6. 20 索引

ルール番号

すべてのISSFルールはルール番号手順により4段階の番号(例: 6. 10. 3. 5)を限度に番号付けられている。

これらのルールに5番目のレベルが必要な場合はa)、b)、c)等を示す。

※については国内適用規定も参照のこと。

追は、国内適用のために追加した項目であり、国内適用規定を参照のこと。

選手 (Athletes)	スポーツ競技会の競技者または参加者。射撃スポーツにおける競技者は時には <u>射手</u> と呼ばれる。
---------------	--

本射 (MATCH Shots)	<u>選手の得点として採点または記録される射撃弾</u>
------------------	------------------------------

6. 1. 1 ISSFルールの目標と目的  
ISSFはISSFの認可を受けて行われる射撃競技を監督統括する

## 旧

目的でテクニカルルールを制定している(GR3.3)。ISSFテクニカルルールは全世界における射撃競技の運営の統一を確立することにより、射撃スポーツの発展を促進することを目的とする。

- ・射場基準、標的規格、採点手順、標準的な競技手順やファイナルのルールを含むISSFゼネラルテクニカルルール(GTR)はすべての射撃種目に適用される。種目別ルール(DR)はライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲットの4つの射撃種目でそれぞれに適用される。
- ・GTRおよびDRはISSF憲章に従って運営理事会により認可される。
- ・GTRおよびDRよりISSF憲章およびGRが優先される。
- ・GTRおよびDRはオリンピック競技大会の翌年の1月1日より4年間有効となるように認可される。特別な場合を除いては、ISSFルールはこの4年間に変更されない。

### 6.1.2

#### GTRおよびDRの適用

- ・ISSF選手権大会とは、オリンピック、世界選手権、ワールドカップ、ワールドカップファイナル、大陸選手権、大陸大会でISSF GR3.2.1とこれらのルールに従い、ISSFの監督下で行われる、射撃スポーツ競技会のことである。
- ・すべてのISSF選手権大会にはISSF GTRとDRが適用されなければならない。
- ・ISSFは、ISSF選手権大会ではない地域、国内、その他の競技会であっても、ISSFの種目が含まれている場合、ISSFルールを適用することを推奨する。
- ・すべての競技役員、選手、コーチおよびチームリーダーはISSFルールを熟知し、ルールの効力を保証しなければならない。
- ・ルールに従うのは各選手の責任である。
- ・右選手に適用されるルールは、左選手の場合、その逆が適用される。
- ・男子種目または女子種目に特に適用されるルールの他は、双方に同

## 新

目的でテクニカルルールを制定している(GR3.3)。ISSFテクニカルルールは全世界における射撃競技の運営の統一を確立することにより、射撃スポーツの発展を促進することを目的とする。

- a) ISSFゼネラルテクニカルルール(GTR)は射場基準、標的規格、採点手順、全ての射撃種目における具体的な競技手順を含む。種目別ルール(DR)はライフル、ピストル、ショットガン、ランニングターゲットの4つの射撃種目でそれぞれに適用される。
- b) GTRおよびDRはISSF憲章に従って運営理事会により認可される。
- c) GTRおよびDRよりISSF憲章およびGRが優先される。
- d) GTRおよびDRはオリンピック競技大会の翌年の1月1日より4年間有効となるように認可される。特別な場合を除いては、ISSFルールはこの4年間に変更されない。

### 6.1.2

#### GTRおよびDRの適用

- a) ISSF選手権大会とは、オリンピック、世界選手権、ワールドカップ、ワールドカップファイナル、大陸選手権、大陸大会でISSF GR3.2.1とこれらのルールに従い、ISSFの監督下で行われる、射撃スポーツ競技会のことである。
- b) すべてのISSF選手権大会にはISSF GTRとDRによって運営されなければならない。
- c) ISSFは、ISSF選手権大会ではない地域、国内、その他の競技会であっても、ISSFの種目が含まれている場合、ISSFルールを使用し、それらによって運営すべきであることを推奨する。
- d) すべての競技役員、選手、コーチおよびチームリーダーはISSFルールを熟知し、ルールの効力を保証しなければならない。
- e) ルールに従うのは各選手の責任である。
- f) 右選手に適用されるルールは、左選手の場合、その逆が適用される。
- g) 男子種目または女子種目に特に適用されるルールの他は、双方に

## 旧

等に適用されなければならない。

- ・ 図表内に示される数値等は通番のルールに等しい効力を持つものとする。

p. 94

6.2.2.2

射座で空撃ちまたは射撃を認められているとき以外は、すべてのライフル、ピストルおよび自動式散弾銃には常にセフティフラッグが挿入されていなければならない。セフティフラッグの目的は、銃の機関部が開放され弾が装填されていないことを、視覚的に明示することである。エアライフルやエアピストルに弾が装填されていないことを明示するためには、セフティフラッグは銃身長よりも長くなければならない。

- ・ このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなければ、  
ジュリーは銃器にセフティフラッグを挿入するように指導し、警告を与えなければならない。
- ・ もしジュリーが警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格とされなければならない。

6.2.2.5

射場役員のチェックを受けずに、銃器を格納したり射座から持ち出した場合、その選手は失格となる場合がある。

## 新

同等に適用されなければならない。

- h) 図表内に示される数値等は通番のルールに等しい効力を持つものとする。

6.2.2.2

このルールによってセフティフラッグを外す事が認められているとき以外は、すべてのライフル、ピストルおよび自動式散弾銃には常に、蛍光オレンジまたは似たような色の素材でできているセフティフラッグが挿入されていなければならない。エアガンに弾が装填されていないことを明示するために、セフティフラッグ（セフティライン）は銃身長よりも長くなければならない。その他の全ての銃において、セフティフラッグは薬室（銃身の最後部）に挿入されることにより、薬室が空であることを示す役割を持たなければならない。二連式ショットガンに弾が装填されていないことを示すためには、銃の機関部が開放されていなければならない。

- a) このルールで要求されているにもかかわらずセフティフラッグを使用していなければ、  
ジュリーは銃器にセフティフラッグを挿入するように指導し、警告を与えなければならない。
- b) もしジュリーが、警告を受けた後もルールにより要求されるセフティフラッグの使用を拒否している選手を確認した場合、その選手は失格とされなければならない。

6.2.2.5

射場役員のチェックを受けずに銃器を格納したり射座から持ち出した場合、ジュリーが安全に関する重大な違反があると判定したならば、その選手は失格となる場合がある。

旧

p. 95

6.2.4.2 エアまたはCO<sub>2</sub>シリンダーが保証期間内であることは選手の責任である。このことは用具検査でチェックされなければならない。

p. 97

6.3.4 標的および標的基準  
 標的はこのルールにある得点圏の大きさ、許容範囲、仕様を守らなければならない。  
 ・ライフルとピストルの標的は整数値で採点できるかまたはESTを使用する場合は小数値で採点できなければならない。小数値の得点圏は整数値の得点圏を10等分したもので、その得点は0(例:10.0、9.0など)から始まり9(例:10.9、9.9など)で終わるものである。  
 ・ライフルとピストルの予選ラウンドおよび本選ラウンドでは、10mエアライフルと50mライフル伏射の種目の予選ラウンドおよび本選ラウンドを小数値で採点する仮措置の場合を除き、整数値で採点される。注:理事会では本選を小数値で行う試合を検証し、これをルールに採用するかの決定を2013年の終わりに下す。  
 ・ライフルとピストルのファイナルは、ヒットミススコアが使用される25mピストル種目のファイナルを除き、小数値で採点される。

p. 116

6.4.7.2 射座の備品  
 射座には次のものが備えられていなければならない。  
 ・高さ0.70m~1.00mの机または台1脚。  
 ・伏射、膝射用のマット1枚。マットの前部分約50cm×80cmの部分は50mm以内の厚さで圧縮性のある材質のもので、なおかつ服装検査用の測定器で測ったとき10mm以上の厚さのものでなければならない。マットの他の部分は最大で50mm最低でも2mmの厚さでなければならない。マット全体は最小でも80cm×2

新

6.2.4.2 エアまたはCO<sub>2</sub>シリンダーが保証期間内であることは選手の責任である。このことは用具検査でチェックすることができる。

6.3.4 標的および標的基準  
 標的はこのルールにある得点圏の大きさ、許容範囲、仕様を守らなければならない。  
 a) ライフルとピストルの標的は整数値で採点できるかまたはEST もしくは電子式紙標的採点機を使用する場合は小数値で採点できなければならない。小数値の得点圏は整数値の得点圏を10等分したもので、その得点は0(例:10.0、9.0など)から始まり9(例:10.9、9.9など)で終わるものである。  
 b) ライフルとピストルの予選ラウンドおよび本選ラウンドでは、10mエアライフルと50mライフル伏射の種目の予選ラウンドおよび本選ラウンドを小数値で採点する ISSF選手権の場合を除き、整数値で採点される。  
 c) ライフルとピストルのファイナルは、ヒットミススコアが使用される25mピストル種目のファイナルを除き、小数値で採点される。

6.4.7.2 射座の備品 射座には次のものが備えられていなければならない。  
 a) 高さ0.70m~1.00mの机または台1脚。  
 b) 伏射、膝射用のマット1枚。 選手は射場から提供されたマットを 変更してはならない。 マットの前部分約50cm×80cmの部分は50mm以内の厚さで圧縮性のある材質のもので、なおかつ服装検査用の測定器で測ったとき10mm以上の厚さのものでなければならない。マットの他の部分は最大で50mm最低でも2mmの厚さでなければならない。マット全体は最小でも80cm

## 旧

00cmの大きさがなければならない。別の方法として、薄いマットと厚いマットの2種類を用意してもよいが、本規則に合致するものでなくてはならない。私物のマットの使用は禁止される。

- ・本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け1脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。
- ・新設の射場では射撃線前方に位置する防風スクリーンの設置は推奨されない。しかし風の条件ができるだけ射場全体で均一になるようにする必要があるときは、防風スクリーンを使用してもよい。
- ・紙標的が使用される場合、記点係用の机と椅子各1脚と監的用スコープ1台が用意されなければならない。
- ・紙標的が使用される場合、記点手が観客に選手の得点を仮発表するための約50cm×50cmのスコアボード1枚。スコアボードは、観客が選手を見るのに邪魔にならないところで、観客が容易に見ることができる位置にあるべきである。
- ・300m射場の射撃線で仕切りスクリーンを設置する必要がある場合、そのスクリーンは軽いフレームに向こう側が透けて見える材質で作られるべきである。スクリーンは射撃線の前方へ少なくとも50cmは突出し、約2.00mの高さがあるべきである。

p. 121

6.4.14.3

射場全体の照度の測定は、測定器で測定し、射座（ $B_1$ ）と射座と標的線の間点（ $B_2$ ）で測定器を天井の照明に向けて測定しなければならない。

屋内射場の照度測定

## 新

×200cmの大きさがなければならない。別の方法として、薄いマットと厚いマットの2種類を用意してもよいが、本規則に合致するものでなくてはならない。私物のマットの使用は禁止される。

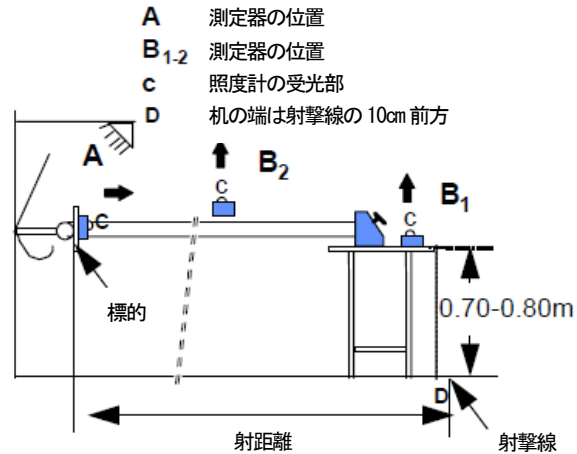
- c) 本選ラウンドにおける選手用の椅子または腰掛け1脚；ファイナル射場においては射座の中または近くに選手用の椅子または腰掛けを置いてはならない。
- d) 新設の射場では射撃線前方に位置する防風スクリーンの設置は推奨されない。しかし風の条件ができるだけ射場全体で均一になるようにする必要があるときは、防風スクリーンを使用してもよい。
- e) 紙標的が使用される場合、記点係用の机と椅子各1脚と監的用スコープ1台が用意されなければならない。
- f) 紙標的が使用される場合、記点手が観客に選手の得点を仮発表するための約50cm×50cmのスコアボード1枚。スコアボードは、観客が選手を見るのに邪魔にならないところで、観客が容易に見ることができる位置にあるべきである。
- g) 300m射場の射撃線で仕切りスクリーンを設置する必要がある場合、そのスクリーンは軽いフレームに向こう側が透けて見える材質で作られるべきである。スクリーンは射撃線の前方へ少なくとも50cmは突出し、約2.00mの高さがあるべきである。

6.4.14.3

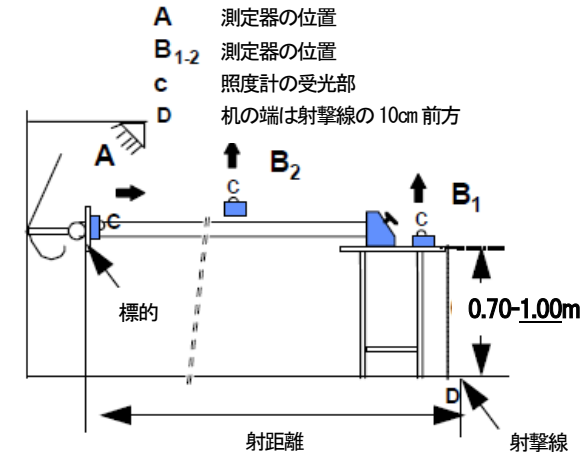
射場全体の照度の測定は、測定器で測定し、射座（ $B_1$ ）と射座と標的線の間点（ $B_2$ ）で測定器を天井の照明に向けて測定しなければならない。

屋内射場の照度測定

旧



新



6.5

#### ゲージと測定器具

- 各組織委員会は I S S F 選手権大会の開催期間中、用具検査に使用するゲージや測定器具など道具一式を用意しなければならない。
- 用具検査を実施する上で必要な用具検査器具の詳しいリストとそれらの器具の仕様と性能の表は I S S F 本部に用意してある。
- I S S F テクニカルデレゲートまたは主任用具検査ジュリーは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。
- 弾速検査用具を使用するための検査を行う用具検査器具は I S S F 本部に用意してある。
- 選手の衣服等の厚さ、固さ、柔軟性の検査に用いる測定器具はこのルール（下記 6.5.1）に従って製造されていないと認められなければならない。

6.5

#### ゲージと測定器具

- 各組織委員会は I S S F 選手権大会の開催期間中、用具検査に使用するゲージや測定器具など道具一式を用意しなければならない。
- 用具検査を実施する上で必要な用具検査器具の詳しいリストとそれらの器具の仕様と性能の表は I S S F 本部に用意してある。
- I S S F テクニカルデレゲートまたは主任用具検査ジュリーは競技会に先立ってすべてのゲージおよび測定器具を検査し承認しなければならない。
- 用具検査器具を検査するための調整器具は I S S F 本部に用意してある。毎日の検査前及び競技後検査において失格となるとと思われる事態が生じたときにはこの用具検査器具を調整に用いなければならない（調整報告様式は I S S F 本部に用意してある）。
- 選手の衣服等の厚さ、固さ、柔軟性の検査に用いる測定器具はこのルール（下記 6.5.1）に従って製造されていないと認められなければならない。

旧

新

p. 124

6.6.1.3 組織委員会とテクニカルデレゲートは、MQSのみの参加を認めるのか、射撃に使える時間数、射群の設定数、使用する射座数などの決定を通して決められた各種目ごとの最大参加数（射座数）をプログラムの中で提示しなければならない。

6.6.1.3 組織委員会とテクニカルデレゲートは、MQSやオープン参加を受け入れるのか、射撃に使える時間数、射群の設定数、使用する射座数などを通して決められた各種目ごとの最大参加数（射座数）をプログラムの中で提示しなければならない。

p. 125

6.6.2.2 競技前練習（PET） 競技前練習は各種目の競技実施前日に行われなければならない。ライフル、ピストル種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上（ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上）の練習がその種目の競技実施前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。

6.6.2.2 競技前練習（PET） 競技前練習は各種目の予選または本選の競技実施前日に行われるべきである。ライフル、ピストル種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上（ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上）の練習がその種目の競技実施前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。

p. 127

6.6.6.1 屋外射場における予選  
選手の数及使用可能な射座数を超える場合、予選が行われなければならない。

6.6.6.1 屋外射場における予選  
選手の数及使用可能な射座数を超える場合、予選が行われなければならない。

※

- ・予選はその種目の全コースを実施しなければならない。
- ・予選通過者は各射群の上位者から、各射群の実参加者数と同比率で、選出されなければならない。予選通過者はできるだけ早く発表されなければならない。
- ・計算式：使用可能な射座数÷実参加者総数×射群の実参加者数＝予選通過者数  
(例) 60射座で101人参加の場合  
第1射群：54名→32.08 (60÷101×54) = 32名  
予選通過  
第2射群：47名→27.92 (60÷101×47) = 28名  
予選通過

- a) 予選はその種目の全コースを実施しなければならない。
- b) 予選の射群は本選の実施される日の前日に実施されるべきである。
- c) 予選通過者は各射群の上位者から、各射群の実参加者数と同比率で、選出されなければならない。予選通過者はできるだけ早く発表されなければならない。
- d) 計算式：使用可能な射座数÷実参加者総数×射群の実参加者数＝予選通過者数  
(例) 60射座で101人参加の場合  
第1射群：54名→32.08 (60÷101×54) = 32名  
予選通過  
第2射群：47名→27.92 (60÷101×47) = 28名

旧

- ・ 予選で団体戦を行う必要がある場合、各チームの選手は予選の各射群に同数ずつ振り分けられなければならない。団体戦の得点は予選の得点によるものとする。
- ・ 第1射群に各チームの2名を第2射群に残りの1名を配分するには射座が不足してしまう場合、予選は各射群に1名ずつを配置する3つの射群により実施される。
- ・ 予選を通過できなかった選手は本選に出場することは許されない。
- ・ 予選通過者の最下位における同点の場合の順位決定は、同点の順位決定規則による。

p. 129

6. 7. 1 ISSFは競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。これらの基準は、ISSF選手権大会において、選手が守らなければならないものでありまた用具検査においてその実施の状態をチェックする。これらの基準は他の選手よりも不正に有利となる選手のいない公正で平等な競技会の原則を守るためのものである。

6. 7. 3 用具検査証は検査済み用具とともに保管しておかなければならない。検査済みの用具や衣服であっても、改造をしたものは再検査されなければならない。

6. 7. 4 ライフルの用具はISSF世界選手権大会またはワールドカップで1回のみ検査 (One Time Only 検査) を受ければよい。

6. 7. 5. 2 選手には使用に先立ちすべての用具と服装を公式の検査と承認を得るために用具検査に提出する責任がある。

新

予選通過

- e) 予選で団体戦を行う必要がある場合、各チームの選手は予選の各射群に同数ずつ振り分けられなければならない。団体戦の得点は予選の得点によるものとする。
- f) 第1射群に各チームの2名を第2射群に残りの1名を配分するには射座が不足してしまう場合、予選は各射群に1名ずつを配置する3つの射群により実施される。
- g) 予選を通過できなかった選手は本選に出場することは許されない。
- h) 予選通過者の最下位における同点の場合の順位決定は、同点の順位決定規則による。

6. 7. 1 ISSFは、ISSF選手権大会において選手が使うことのできる競技用の服装および用具に関して明確なる基準を制定した。また、これらの基準は他の選手よりも不正に有利となる選手のいない公正で平等な競技会の原則を守るために用具検査において調べるためのものである。

6. 7. 3 選手は、ISSF選手権大会で自分の使用する全ての用具と服装がISSFルールを遵守していることを保証する責任を負う。

6. 7. 4 ライフルおよびピストルの選手の全ての用具は用具検査ジュリーと組織委員会により設置された用具検査係において検査される。

← 削除 (このことにより6. 7. 5. 3が6. 7. 5. 2に6. 7. 5. 4が6. 7. 5. 3に変わる)



p. 130

6.7.6 ISSFドレスコード  
公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員の責任である。選手と役員の服装はISSFドレスコード（ISSF本部に用意してある）を遵守しなければならない。

6.7.6 ISSFドレスコード  
公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび役員の責任である。選手と役員の服装はISSFドレスコードを遵守しなければならない。6.19のISSFドレスコード全文を見ること。

挿入（このことにより6.7.6.2が6.7.6.3に6.7.6.3が6.7.6.4に変わる） →

6.7.6.2 競技中、選手このルールを遵守した靴を履かなければならない。選手はどのようなタイプのサンダルも履くことはできないし、靴を脱ぐこと（靴下を履いていようがいまいが）もできない。

6.7.7 用具検査  
競技開始前に、すべての選手の競技会で使用される銃や用具はそれがISSFルールに合致していることを確認するために用具検査係によって検査されなければならない。各選手は、競技会での使用前に、公式の検査と承認を得るために、銃と用具を持参する責任を負う。すべての選手の銃と用具は競技後の検査を受けさせることができる。

6.7.7 用具検査  
組織委員会は用具検査ジュリーの監督のもと用具検査を行う用具検査係を設置しなければならない。用具検査サービスは、選手が競技前の用具検査をできるように、全ての選手に対して利用できるようになっていなければならない。ISSFルールの遵守を保証するために、用具検査ジュリーと用具検査係はランダム競技後検査を行わなければならない（6.7.9）。

6.7.7.1 用具検査手順  
・組織委員会はチーム役員および選手に、競技開始前に十分な時間をもって、用具検査がいつ、どこで行われるかを通知しておかなければならない。  
・用具検査係は用具検査ジュリーの支援と監督を受ける。  
・用具検査係は用具検査で承認を受けたそれぞれの銃の選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票（コントロールカード）に記録しなければならない。  
・エアまたはCO<sub>2</sub>シリンダーが保証期間（最大10年）内であり安全であると保証することは選手の責任である。このことは用具検査

6.7.7.1 用具検査手順  
a) 組織委員会はチーム役員および選手に、競技開始前または競技中に、用具検査をいつ、どこで行うことができるかを通知しておかなければならない。  
b) 用具検査室は、公式練習日からライフル、ピストル、ランニングターゲットの競技が終了する日まで、選手の用具の自主検査のために開けられていなければならない。  
c) 毎日の検査前及び競技後検査において失格となると思われる事態が生じたときに行われる検査器具の調整には、ISSF検査器具調整器具を用いなければならない。

## 旧

がチェックすることができ、推奨される措置を忠告することができる。

- ・用具検査で承認を受けたすべての用具類にはシールかステッカーで印がつけられなければならない。そして用具検査票にも承認の記録がされなければならない。
- ・用具検査票のコピーが1枚選手に渡される。選手は用具とともにその検査票を常に持っていなければならない。もし選手が用具検査票をなくした場合、その再発行には10,000ユーロの料金がかかる。
- ・もしライフル用の服装を同じ選手権大会の期間中に2度目もしくは再検査のために再提出するならば、再検査費用として20,000ユーロが課せられる。
- ・用具類が承認された後には、競技開始前、競技中のいかなるときも、ISSFルールに反するいかなる方法による変更も加えてはならない。
- ・変更に対して疑義が生じたならば、その用具は承認を得るための再検査を受けるため、用具検査係に戻されなければならない。
- ・用具類の承認は、“One Time Only 検査”で検査されたライフルの服装を除き、その検査が行われた競技会のみ有効である。

## 新

- d) 選手には自分の使用する用具が競技後検査に合格するという確証がもてなければ、その用具を検査するために用具検査室に持っていくことを推奨する。
- e) 用具検査係は全ての射撃ジャケットと射撃ズボンを、選手に登録されたシリアルナンバーのついたタグを調べ、確認しなければならない。タグはタグを壊すことなく取り外すことができないように設計されてなければならない。2013年以前に“One Time Only 検査”で発行されたタグはこの要求を満たしている。タグのないジャケットとズボンはISSFルールを遵守しているか検査され、選手に登録されたものとしてタグが取り付けられなければならない。用具検査ジュリー及びライフルジュリーは、ルール 7.5.1.2 に従い、ランダム検査でジャケットやズボンのタグを利用する。
- f) 用具検査係は用具検査で検査したそれぞれの銃、射撃ジャケットおよび射撃ズボンの選手の名前、メーカー、銃番号および口径を用具検査票（コントロールカード）に記録し、保存しなければならない。
- g) エアまたはCO<sub>2</sub>シリンダーが保証期間（最大10年）内であり安全であると保証することは選手の責任である。このことは用具検査がチェックすることができ、推奨される措置を忠告することができる。
- h) 用具検査票のコピーが1枚選手に渡される。選手は用具とともにその検査票を常に持っていなければならない。もし選手が用具検査票をなくした場合、その再発行には10,000ユーロの料金がかかる。
- i) もしライフル用の服装を同じ選手権大会の期間中に2度目もしくは再検査のために再提出するならば、再検査費用として20,000ユーロが課せられる。

旧

p. 131

- 6.7.8.4 帽子、キャップ、眼鏡枠またはヘッドバンドに取り付けるサイドブラインダー(片側または両側)は高さ40mmを超えないものの使用が許される(A)。サイドブラインダーの前端は、横から見たときに、額の中心から伸ばされる直線を超えて前方に延びてはならない。  
照準に使用しない眼を覆うフロントブラインダーは幅30mmを超えないものの使用が許される(B)。

p. 132

- 6.7.9.1 フォローアップ検査は予選および本選ラウンドの後に行われなければならない。10m、50mのライフルおよびピストル種目でのフォローアップ検査は、各射群ごとにファイナリストを含む3名以上の選手をランダムおよび指名選出し、実施しなければならない。25mピストル種目のフォローアップ検査はPR8.4.2.3に従って行われなければならない。用具検査ジュリーはすべての競技後検査の運営を監督する責任を負う。ライフルの競技後検査は射撃用の服装、下着、テーピングおよびライフル(必要なら引き金検査)の検査を含まなければならない。ピストルの競技後検査は靴、テーピング、引き金の重さおよび25mラピッドファイアピストルでは弾速と弾頭重量の検査を含まなければならない。服装とテーピングの検査は選手と同性の審判が担当しなければならない。
- 6.7.9.2 ライフルの服装検査は対象選手が射撃を終了した直後に行われる。服装が検査に合格しない場合、再検査が実施される。いずれかの服装が2回目の検査でも合格しなかった場合、その選手は失格とされなければならない。フォローアップ検査前および検査中に、服装に加熱または他の方法による一時的または恒久的な変更を加えてはならない。

新

- 6.7.8.4 帽子、キャップ、眼鏡枠またはヘッドバンドに取り付けるサイドブラインダー(片側または両側)は高さ40mmを超えないものの使用が許される(A)。サイドブラインダーの前端は、横から見たときに、額の中心から伸ばされる直線を超えて前方に延びてはならない。サイドブラインダーの下端は、目の中心線から下方20mmを超えて下げてはならない。  
照準に使用しない眼を覆うフロントブラインダーは幅30mmを超えないものの使用が許される(B)。

- 6.7.9.1 競技後検査は予選および本選ラウンドの後およびファイナル前の出頭時間中に行われなければならない。10m、50mのライフルおよびピストル種目での競技後検査は、ランダムに選ばれたファイナリストを含む5名以上の選手をランダムおよび指名選出し、実施しなければならない。25mピストル種目の競技後検査は各ステージ各射群で1名以上の選手に行われなければならない。用具検査ジュリーはすべての競技後検査の運営を監督する責任を負う。ライフルの競技後検査は射撃用の服装、下着、テーピングおよびライフル(必要なら引き金検査)の検査を含まなければならない。ピストルの競技後検査は靴、テーピング、引き金の重さおよび25mラピッドファイアピストルでは弾速と弾頭重量の検査を含まなければならない。服装とテーピングの検査は選手と同性の審判が担当しなければならない。

- 6.7.9.2 ライフルの服装検査は対象選手が射撃を終了した直後に行われる。服装が検査に合格しない場合、再検査が実施される。いずれかの服装が2回目の検査でも合格しなかった場合、その選手は失格とされなければならない。競技後検査前および検査中に、服装に加熱または他の方法による一時的または恒久的な変更を加えてはならない。

旧

6.7.9.3 競技後検査に通らなかった選手が出た場合、主任用具検査ジュリーまたは主任用具検査ジュリーに担当を指示されていたジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。この失格に対する上訴は上訴ジュリーに提出することができる。上訴ジュリーは、検査が正確に行われていたのであれば、再検査はできないことを決定しなければならない。

6.7.9.4 選手が銃、服装または用具に変更または変更を試みたという確かな証拠をジュリーが手に入れた場合、その選手を指名選択検査（特定の選手を選ぶ）することができる。

p. 134

挿入（このことにより 6.8.6~6.8.15 の条文番号が 6.8.7~6.8.16 に変わる） →

p. 143

6.10.9.3 モニターに弾痕の位置表示や得点記録がなかった場合  
選手はただちに異状を最寄りの射場役員に知らせなければならない。射場役員は不満の受付時刻を記録しなければならない。1名以上のジュリーがその射座に向かなければならない。選手はその電子標的に対し、もう1発、照準をつけた射撃を行うように指示される。  
a) このエキストラショットの得点および位置がモニター上に記録され表示された場合  
・選手はこのまま競技を継続するように指示されなければならない。  
・このエキストラショットの得点と位置および発射時刻は記録されなければならない。このエキストラショットが何発目か(不明の弾痕を含む)、得点、位置および射座番号は、書面でジュリーに報告され、

新

6.7.9.3 競技後検査に通らなかった選手が出た場合、主任用具検査ジュリーまたは主任用具検査ジュリーに担当を指示されていたジュリーは検査が正確に行われていたことを確認し、選手を失格にしなければならない。  
**確認の手順には、検査器具の測定が正確であることを確認するために、ISSF検査器具調整器具の使用が含まれる。**

**6.7.9.4** この失格に対する上訴は上訴ジュリーに提出することができる。上訴ジュリーは、検査が正確に行われていたのであれば、再検査はできないことを決定しなければならない。

**6.7.9.5** 選手が銃、服装または用具に変更または変更を試みたという確かな証拠をジュリーが手に入れた場合、その選手を指名選択検査（特定の選手を選ぶ）することができる。

**6.8.6** **練習および競技中、ジュリーは選手の衣服および用具がISSFスポンサーシップ/広告ルール(4.4~4.7、6.7.8.3)を遵守しているかチェックする責任を負う。**

6.10.9.3 モニターに弾痕の位置表示や得点記録がなかった場合  
選手はただちに異状を最寄りの射場役員に知らせなければならない。射場役員は不満の受付時刻を記録しなければならない。1名以上のジュリーがその射座に向かなければならない。選手はその電子標的に対し、もう1発、**本射**を行うように指示される。  
このエキストラショットの得点および位置がモニター上に記録され表示された場合  
a) 選手はこのまま競技を継続するように指示されなければならない。  
b) このエキストラショットの得点と位置および発射時刻は記録されなければならない。このエキストラショットが何発目か(不明の弾痕を含む)、得点、位置および射座番号は、書面でジュリーに報告

## 旧

個票と射場事故報告書に記録されなければならない。

- ・その射群の競技終了後、ESTの検査手順が行われる。この情報とエクストラショットの発射時刻およびその位置を利用し、審査 Jury はエクストラショットを含むすべての弾痕がコンピュータに記録されている得点データのどれに相当するかを特定する。
  - ・すべての弾痕が正しく記録されていた場合、疑問のあった発射弾（表示、記録のなった弾）の得点はその選手の得点として計算される。エクストラショットとして疑問の示された直後に発射された弾についてはこれを得点に含め、最終弾（規定弾数を超えたもの）が取り消される。
  - ・疑問のあった発射弾の弾痕が、ESTの検査手順によっても、どこにも見つからなかった場合、エクストラショットの得点が採用され、最終弾（規定弾数を超えたもの）までがその選手の得点として計算される。
  - ・疑問のあった発射弾のデータがコンピュータメモリに無いにもかかわらず、弾痕が見つかった場合、審査 Jury がその疑問のあった発射弾の有効性と得点を決定する。
- b) 指示されたエクストラショットが記録、表示されず、ESTが5分以内に修理できない場合
- ・選手は予備射座に移動しなければならない。
  - ・射撃の準備が整った時点で、5分間が残り競技時間に追加される。選手には弾数無制限の試射が許される。
  - ・10mおよび50mのライフルおよびピストル種目では、選手は前の射座で記録、表示されなかった2発の本射を再射する。

p. 144

### 6.11.1.1

#### 準備および試射時間

選手には競技開始前に最終準備と弾数無制限の試射を行うために15分間を与えられなければならない。

- ・準備および試射時間の開始15分前までに試射的は上げられていな

## 新

され、個票と射場事故報告書に記録されなければならない。

- c) その射群の競技終了後、ESTの検査手順が行われる。この情報とエクストラショットの発射時刻およびその位置を利用し、審査 Jury はエクストラショットを含むすべての弾痕がコンピュータに記録されている得点データのどれに相当するかを特定する。
- d) すべての弾痕が正しく記録されていた場合、疑問のあった発射弾（表示、記録のなった弾）の得点はその選手の得点として計算される。エクストラショットとして疑問の示された直後に発射された弾についてはこれを得点に含め、最終弾（規定弾数を超えたもの）が取り消される。
- e) 疑問のあった発射弾の弾痕が、ESTの検査手順によっても、どこにも見つからなかった場合、エクストラショットの得点が採用され、最終弾（規定弾数を超えたもの）までがその選手の得点として計算される。
- f) 疑問のあった発射弾のデータがコンピュータメモリに無いにもかかわらず、弾痕が見つかった場合、審査 Jury がその疑問のあった発射弾の有効性と得点を決定する。

### 6.10.9.4

または、指示されたエクストラショットが記録、表示されず、ESTが5分以内に修理できない場合

- a) 選手は予備射座に移動しなければならない。
- b) 射撃の準備が整った時点で、5分間が残り競技時間に追加される。選手には弾数無制限の試射が許される。
- c) 10mおよび50mのライフルおよびピストル種目では、選手は前の射座で記録、表示されなかった2発の本射を再射する。

### 6.11.1.1

#### 準備および試射時間

選手には競技開始前に最終準備と弾数無制限の試射を行うために15分間を与えられなければならない。

- a) 準備及び試射時間は本射の公式開始時刻の約30秒前に終わらせ

## 旧

なければならない。

- ・選手は射場長が選手を射座に呼び寄せる前に銃や用具の射座への持ち込みをすることはできない。
- ・射場長は準備および試射時間の開始 15 分前までに選手を射座に呼び寄せなければならない。
- ・複数の射群がある場合、すべての射群で射座への用具の持ち込みのための時間が同じになるようにしなければならない。
- ・射場長が選手を射座に呼び寄せた後は準備および試射時間前であっても、選手は射撃線において銃を取り扱い、据銃、照準、空撃ちをすることができる。
- ・ Jury と射場役員による競技前チェックは準備および試射時間が始まるまでに完了しなければならない。
- ・準備および試射時間は“PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (プレパレーション アンド サイティング タイム... スタート)”の号令により開始される。  
“START (スタート)”の号令前の発射はできない。
- ・準備および試射時間の開始前に1発以上の弾を発射してしまった選手には、安全上の問題のある場合は、失格が科せられなければならない。安全上の問題のない場合は、本射の1発目を0点として記録しななければならない。
- ・準備および試射時間の終了時刻は本射の公式開始時刻とならなければならない。

## 新

なければならない。

- b) 準備および試射時間の開始 15 分前までに試射的は上げられていなければならない。
- c) 選手は射場長が選手を射座に呼び寄せる前に銃や用具の射座への持ち込みをすることはできない。
- d) 射場長は準備および試射時間の開始 15 分前までに選手を射座に呼び寄せなければならない。
- e) 複数の射群がある場合、すべての射群で射座への用具の持ち込みのための時間が同じになるようにしなければならない。
- f) 射場長が選手を射座に呼び寄せた後は準備および試射時間前であっても、選手は射撃線において銃を取り扱い、据銃、照準、空撃ちをすることができる。
- g) Jury と射場役員による競技前チェックは準備および試射時間が始まるまでに完了しなければならない。
- h) 準備および試射時間は “ PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (プレパレーション アンド サイティング タイム... スタート) ” の号令により開始される。  
“START (スタート)”の号令前の発射はできない。
- i) 準備および試射時間の開始前に1発以上の弾を発射してしまった選手には、安全上の問題のある場合は、失格が科せられなければならない。安全上の問題のない場合は、本射の1発目を0点として記録しななければならない。
- j) 準備および試射時間が 14 分 30 秒が過ぎたとき、射場役員は “30 SECONDS (サーティー セコンズ)” とアナウンスしなければならない。
- k) 準備および試射時間の終了時刻には、射場長の “ END OF PREPARATION AND SIGHTING... STOP (エンド オブ プレパレーション アンド サイティング... ストップ) ” の号令が発せられなければならない。その後、標的役員が本射への切換えをできるように、約 30 秒間の休止をとらなければ

p. 145

## 6. 11. 1. 2

## 競技の開始

- ・ 準備および試射時間の終了時刻には、射場長の“END OF PREPARATION AND SIGHTING... STOP (エンド オブ プレパレーション アンド サイティング... ストップ)”の号令が発せられる。その後、標的役員が本射への切換えをできるように、約30秒間の休止をとらなければならない。
- ・ すべての標的が本射に切り替えられた後、射場長は“MATCH FIRING... START (マッチ ファイアリング... スタート)”の号令をかける。本射は射場長の“START (スタート)”の号令により開始されたものとみなされる。
- ・ 本射開始後のすべての発射弾は本射として記録されなければならない。しかしながら、空撃ちは許される。
- ・ 本射開始後は、50mライフル三姿勢種目の姿勢の切り替え時およびルールに基づくジュリーの許可を受けた場合を除いて、試射は許されない。
- ・ このルールに反するすべての試射の発射弾は本射弾とみなされ、0点と記録されなければならない。
- ・ 射場長は拡声器により競技時間終了の10分前および5分前に、残り時間を選手に知らせなければならない。
- ・ 射場長やジュリーによって時間延長が認められていない場合、本射

ばならない。

- 1) “END OF PREPARATION AND SIGHTING... STOP (エンド オブ プレパレーション アンド サイティング... ストップ)”の号令の後、“MATCH FIRING... START (マッチ ファイアリング... スタート)”の号令の前に選手が弾を発射した場合、その弾は本射として採点してはならず、さらに本射第1発目に2点の減点が科せられる。

## 6. 11. 1. 2

## 競技の開始

- a) すべての標的が本射に切り替えられた後、射場長は“MATCH FIRING... START (マッチ ファイアリング... スタート)”の号令をかける。本射は射場長の“START (スタート)”の号令により開始されたものとみなされる。
- b) 本射開始後のすべての発射弾は本射として記録されなければならない。しかしながら、空撃ちは許される。
- c) 本射開始後は、50mライフル三姿勢種目の姿勢の切り替え時およびルールに基づくジュリーの許可を受けた場合を除いて、試射は許されない。
- d) このルールに反するすべての試射の発射弾は本射弾とみなされ、0点と記録されなければならない。
- e) 射場長は拡声器により競技時間終了の10分前および5分前に、残り時間を選手に知らせなければならない。
- f) 射場長やジュリーによって時間延長が認められていない場合、本射時間中に発射できなかった弾は0点として採点されなければならない。
- g) 10mESTを使用した本射中にジュリーが射座内の選手の位置の横方向への30cm以上の移動を指示した場合、選手には本射再開前に2分間の延長時間と追加の試射が与えられなければならない

時間中に発射できなかった弾は0点として採点されなければならない。  
い。

- ・ 10mESTを使用した本射中にジュリーが射座内の選手の位置の移動を指示した場合、選手には本射再開前に2分間の延長時間と追加の試射が与えられなければならない。

## p. 148

6. 11. 6 違反行為と罰則ルール
6. 11. 6. 1 選手が未承認の銃や用具を使用して競技を開始した場合、本射第1シリーズの最も低い点数に対して2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。その選手は、未承認の銃器や用具が用具検査で承認されるまで、射撃を継続することは許されない。射撃が再開できるのはジュリーによって決められたときだけである。追加の試射や時間延長は許されない。
6. 11. 6. 2 選手が競技開始前または競技中に検査承認済みの銃または用具にルールに反するような改変を施した場合、その選手は失格とされなければならない。
6. 11. 6. 3 銃や用具に施した改変に関して疑義が生じた場合、改変がルールに適合していることを証明するための再検査を受けるために、その銃や用具は用具検査に戻さなければならない。
6. 11. 6. 4 選手が競技に遅刻した場合、参加はできるが追加時間は与えられない。選手が準備および試射時間の後に到着した場合、追加の試射時間は与えられない。遅刻が不可抗力によるものであると証明された場合、ジュリーは、ファイナルの開始時刻の遅れや全体の射撃日程を崩さない範囲で、準備および試射時間を含めて延長時間を補償しなければならない。この場合、ジュリーはいつ、どの射座で遅刻した選手が競技を開始するのかを決定する。
6. 11. 6. 5 選手の用具が用具検査の承認済みであるにもかかわらず、その種目の開始時に用具検査用紙を提示することができない場合、選手は射撃を開始することはできるが、その種目のその射群の公式終了時刻までに、

い。

6. 11. 6 選手の遅刻
- 選手が競技に遅刻した場合、参加はできるが追加時間は与えられない。選手が準備および試射時間の後に到着した場合、追加の試射時間は与えられない。遅刻が不可抗力によるものであると証明された場合、ジュリーは、ファイナルの開始時刻の遅れや全体の射撃日程を崩さない範囲で、準備および試射時間を含めて延長時間を補償しなければならない。この場合、ジュリーはいつ、どの射座で遅刻した選手が競技を開始するのかを決定する。

( 旧6. 11. 6. 4のみを残して、あとは削除 )



その選手（またはコーチやチーム役員）が競技開始前に用具検査の承認を受けていたという確認を取り付けられない場合、第1シリーズの最も低い得点に2点の減点がペナルティとして科せられる。このために用具検査室に向くことは選手（またはコーチやチーム役員）の責任である。また、このことによる時間延長は許されない。

## p. 154

## 6. 12. 6

## ルール違反に対する罰則

## 6. 12. 6. 1

ISSFルールに違反したり射場役員やジュリーの指示に違反した場合、ジュリー団またはジュリーは次のようなペナルティを選手に科すことができる。

- ・警告：警告はイエロー・カードを提示し、警告であることを選手がはっきりと認識できるような方法で行われなければならない。しかしながら、この警告を与える前に何らかのペナルティ（注意など）を与えておく必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリーが与えることができる。
- ・減点：得点からの減点は、少なくとも2名のジュリーにより、減点と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙に印が付けられ、個票に記入されなければならない。減点は個人のジュリーが与えることができる。
- ・失格：選手の失格はジュリーによって失格と書かれたレッドカードを提示することで行われる。競技後検査を合格できなかった選手は、その検査結果を一人のジュリーが確認した時点で、失格とされなければならない（6. 7. 9. 3）。その他の理由による失格はジュリーの多数決によって裁定された場合のみ科すことができる。
- ・ファイナルでの失格については、選手はそのファイナルの最下位となるが、本選における得点は保証される。
- ・ペナルティは口頭説明およびイエロー、グリーン、レッドカードの

## 6. 12. 6

## ルール違反に対する罰則

## 6. 12. 6. 1

ISSFルールに違反したり射場役員やジュリーの指示に違反した場合、ジュリー団またはジュリーは次のようなペナルティを選手に科すことができる。

- a) 警告：警告はイエロー・カードを提示し、警告であることを選手がはっきりと認識できるような方法で行われなければならない。しかしながら、この警告を与える前に何らかのペナルティ（注意など）を与えておく必要はない。警告は射場事故報告書に記録され、個票に記入されなければならない。警告は個人のジュリーが与えることができる。
- b) 減点：得点からの減点は、少なくとも2名のジュリーにより、減点と書かれたグリーンカードを提示することで行われる。減点は射場事故報告書に記録され、プリンター用紙に印が付けられ、個票に記入されなければならない。減点は個人のジュリーが与えることができる。
- c) **失格：選競技後検査を合格できなかった選手は、その検査結果を一人のジュリーが確認した時点で、失格とされなければならない（6. 7. 9. 3）。その他の理由による失格はジュリーの多数決によって裁定された場合のみ科すことができる。手の失格はジュリーによって失格と書かれたレッドカードを提示することで行われる。**
- d) ファイナルでの失格については、選手はそのファイナルの最下位となるが、本選における得点は保証される。
- e) ペナルティは口頭説明およびイエロー、グリーン、レッドカード

旧

提示によって示される。ペナルティカードの大きさは約70mm×100mmとすべきである。

新

の提示によって示される。ペナルティカードの大きさは約70mm×100mmとすべきである。

p. 155

挿入 →

6.12.8

**競技役員に対する暴力行為**

ジュリー、レフリー、射場役員、他の競技役員または他の選手に対し、つかむ、押す、突く、殴るまたは似たような方法で身体的接触を行った選手またはチーム役員は、その選手権大会から除外されることもある。このような身体的暴行はその種目を統括する責任を負う主任ジュリーに報告されなければならない。申し立ての暴行行為を裏付ける目撃者または物的証拠が1つ以上確認されなければならない。その後、ジュリーはその選手またはチーム役員を選手権から除外すべきかどうかの決断をしなければならない。除外の決定は上訴ジュリーに上訴することができる(6.16.7)。もしジュリーや上訴ジュリーがその暴力行為の重大性によりさらなる制裁を科すことが正当であると結論を下したならば、該当選手やチーム役員はその大会からの除外に加えて、さらなる検討のためにISSF倫理委員会に付託することができる。

p. 156

6.13.6

ファイナルにおける故障に関する特別ルールは6.17.2、6.17.3、6.17.4、6.17.5である。

6.13.6

ファイナルにおける故障に関する特別ルールは6.17.1.6、6.17.4.m、6.17.5.mである。

6.13.7

射場役員またはジュリーは故障が射場事故報告書に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

6.13.7

射場役員またはジュリーは故障が射場事故報告書または故障採点票に記録され、個票に記入されていることを確認しなければならない。

旧

p. 157

6. 14. 3. 2 必要に応じ成績表では以下の略号が使用されなければならない。

DNF	Did Not Finish (途中棄権)
DNS	Did Not Start (欠場)
DSQ	Disqualified (失格)
WR	New World Record (世界新記録)
EWR	Equaled World Record (世界タイ記録)
FWR	New Final World Record (ファイナル世界新記録)
E FWR	Equaled Final World Record (ファイナル世界タイ記録)
WR J	New World Record Junior (世界ジュニア新記録)
EWR J	Equaled World Record Junior (世界ジュニアタイ記録)
OR	New Olympic Record (オリンピック新記録)
EOR	Equaled Olympic Record (オリンピックタイ記録)
FOR	New Final Olympic Record (ファイナルオリンピック新記録)
E FOR	Equaled Final Olympic Record (ファイナルオリンピックタイ記録)

p. 158

6. 14. 8 得点からの減点は必ず違反が起こったシリーズで行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第1シリーズの最も低い得点から行われなければならない。

6. 14. 9 I S S F選手権大会において世界記録が生まれた場合、テクニカルデレゲートによって世界記録の確認手順の報告が作成され、I S S F本部に送られなければならない。

新

6. 14. 3. 2 必要に応じ成績表では以下の略号が使用されなければならない。

DNF	Did Not Finish (途中棄権)
DNS	Did Not Start (欠場)
DSQ	Disqualified (失格)
WR	New World Record (世界新記録)
<b>FWR</b>	<b>New Final World Record (ファイナル世界新記録)</b>
<b>EWR</b>	<b>Equaled World Record (世界タイ記録)</b>
E FWR	Equaled Final World Record (ファイナル世界タイ記録)
WR J	New World Record Junior (世界ジュニア新記録)
<b>FWR J</b>	<b>New Final World Record Junior (ファイナル世界ジュニア新記録)</b>
<b>EWR J</b>	<b>Equaled World Record Junior (世界ジュニアタイ記録)</b>
<b>E FWR J</b>	<b>Equaled Final World Record Junior (ファイナル世界ジュニアタイ記録)</b>
FOR	New Final Olympic Record (ファイナルオリンピック新記録)
E FOR	Equaled Final Olympic Record (ファイナルオリンピックタイ記録)

6. 14. 8 得点からの減点は必ず違反が起こったシリーズで行われなければならない。全般的な減点措置は、減点の生じたステージの第1シリーズの最も低い**本射**得点から行われなければならない。

**6. 14. 9 審査ジュリーは上位10人の個人成績および上位3チームの団体成績を、最終成績表の承認に先立って、チェックしなければならない。ESTが使用されている場合、そのチェックはメインコンピューター**

旧

新

に記録された成績とプリンター用紙または独立したメモリー（6. 3. 2. 7参照）に記録された成績と、それに加えて、射場事故報告（I R）や故障採点票に記録された全ての手書きの採点関係書類との比較によらなければならない。

p. 159

挿入（このことにより 6. 14. 10～6. 14. 12 が 6. 14. 11～6. 14. 13 に変わる） →

6. 14. 10

世界記録

GR 3. 9に従って、世界記録が認められる I S S F大会は次の通りである。

6. 14. 10. 1

ファイナル世界記録（FWR）およびファイナルオリンピック記録（FOR）はオリンピック大会における 10m および 50m のライフルおよびピストル種目と 25m ラピッドファイアピストル種目のみに認められる。

6. 14. 10. 2

ジュニア世界記録およびジュニアファイナル世界記録は、GR 3. 9. 2に従って、I S S Fが公認した全てのジュニア種目において認められる。

6. 14. 9 がここへ移動 →

6. 14. 10. 3

I S S F選手権大会において世界記録が生まれた場合、テクニカルデレゲートによって世界記録の確認手順（GR 3. 1 2. 3. 6、様式R）の報告が作成され、I S S F本部に送られなければならない。

6. 14. 10. 4 審査作業とは別個に、審査ジュリーは最終的な成績発表に先立って、個人戦の 10 位までと団体戦の 3 位までの成績を点検しなければならない。

← 6. 14. 9 となって、移動。

p. 162

6. 15. 1 300m、50m、25m、10m種目の個人競技の同点  
300m、50m、25m、10m種目における同点は次のルールによってすべて順位決定がなされる。

6. 15. 1 300m、50m、25m、10m種目の個人競技の同点  
300m、50m、25m、10m種目における同点は次のルールによってすべて順位決定がなされる。

## 旧

- ・ X圏（インナーテン）の数の多い者。
- ・ 最終シリーズ10発の合計点（X圏の数や小数点得点ではない）の多い者。以下均衡が破れるまでシリーズを逆順にさかのぼる。
- ・ 最終弾の得点（X圏を含む）の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
- ・ それでも同点が残し、ESTを使用していた場合、最終弾の小数点得点の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
- ・ 以上をもってしても順位が決定しない場合、ファイナル進出者の決定に関わる同点でなければ、当該選手は同順位とし、選手の姓のアルファベット順に記載されなければならない。
- ・ 10mエアライフルと50mライフル伏射種目の予選または本選ラウンドで小数点得点を使用した場合、同点の順位決定は小数点得点によるシリーズカウントバック、小数点得点による1発ごとのカウントバックによって決定される。

p. 167

6.16.7

上訴（アピール）

ジュリーの裁定に同意できない場合、上訴することのできないファイナル抗議ジュリーの裁定を除いて、上訴ジュリーに上訴できる。上訴はジュリーの裁定が発表されて30分以内にチームリーダーまたは代表者によって書面で提出されなければならない。上訴ジュリーの裁定は最終である。

6.17.1.1

ファイナルへの進出 ファイナル進出者を決める本選として各オリンピック種目はフルプログラム（3.3.2）で行われなければならない。本選における上位6名が進出する25mラピッドファイアピストル男子を除き、本選における上位8名がファイナルへ進出する。

## 新

- a) X圏（インナーテン）の数の多い者。
- b) 最終シリーズ10発の合計点（X圏の数や小数点得点ではない）の多い者。以下均衡が破れるまでシリーズを逆順にさかのぼる。
- c) 最終弾の得点（X圏を含む）の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
- d) それでも同点が残し、ESTを使用していた場合、最終弾の小数点得点の高い者。以下均衡が破れるまで1発ずつ逆順にさかのぼる。
- e) 以上をもってしても順位が決定しない場合、当該選手は同順位とし、選手の姓のアルファベット順に記載されなければならない。
- f) 10mエアライフルと50mライフル伏射種目の予選または本選ラウンドで小数点得点を使用した場合、同点の順位決定は小数点得点によるシリーズカウントバック、小数点得点による1発ごとのカウントバックによって決定される。

6.16.7

上訴（アピール）

ジュリーの裁定に同意できない場合、最終決定であり上訴することのできないファイナル抗議ジュリーの裁定および審査ジュリーによる発射弾数と得点の決定（6.16.6）を除いて、上訴ジュリーに上訴できる。上訴はジュリーの裁定が発表されて30分以内にチームリーダーまたは代表者によって書面で提出されなければならない。上訴ジュリーの裁定は最終である。

6.17.1.1

ファイナルへの進出 ファイナル進出者を決める本選として各オリンピック種目はフルプログラム（3.3.2.3 および 3.3.4）で行われなければならない。本選における上位6名が進出する25mラピッドファイアピストル男子を除き、本選における上位8名がファイナルへ進出する。

旧

6.17.1.2 ファイナルの射座とB i b番号 ファイナルの射座は本選の順位に従って割り当てられ、新しいB i b番号（1～8または1～6）が配布される。射座はA、B、C、D、E、F、G、Hと表示され、予備的はR 1、R 2と表示されるべきである。

p. 169

6.17.1.9 ファイナル射場の備品 ファイナル射場にはファイナリストが見ることのできるLCDスコアボードシステムとカウントダウン時計および音響システムが設備されてなければならない。ジュリーおよび射場役員、コーチと脱落した選手のために椅子が用意されていなければならない。

p. 170

6.17.1.11 ファイナリストの紹介 試射時間または試射シリーズの後、全ファイナリストは銃を置き、ファイナリストがそのままの姿勢で留まるライフルの三姿勢種目のファイナルを除き、聴衆に向かうように振り向かななければならない。アナウンサーは各ファイナリストをその氏名、国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当ジュリーの紹介も行う。

6.17.1.12 ファイナルの手順とルール このルール（6.17）でカバーできない事態には、I S S F G T Rまたは各種目のルールが適用される。  
注）時間進行がガイドラインとしてこのルールの中で示されているが、正確な時間進行についてはI S S F本部にある“Commands and Announcements for Finals”をチェックすること。

新

6.17.1.2 ファイナルの射座とB i b番号 ファイナルの射座はスタートリストが発表される時には、コンピューターによって自動的に行われるくじによって割り当てられる。10mおよび50mの射座はA、B、C、D、E、F、G、Hと表示され、予備的はR 1、R 2と表示されなければならない。25mピストル女子のファイナルの射座はA、B、C、D、E/F、G、H、I、Jと表示されなければならない。

6.17.1.9 ファイナル射場の備品 ファイナル射場にはファイナリストが見ることのできるLCDスコアボードシステムとカウントダウン時計および音響システムが設備されてなければならない。もしファイナリスト全員が見ることができる位置にカウントダウン時計がなければ、全てのファイナリストのモニター上に正確な残り時間が明瞭に映しださなければならない。ジュリーおよび射場役員、コーチと脱落した選手のために椅子が用意されていなければならない。

6.17.1.11 ファイナリストの紹介 試射時間または試射シリーズの後、ライフル種目のファイナリストはそのままの姿勢でライフルを肩からはずして下ろし、聴衆やTVカメラに顔を向けなければならない。ピストル種目のファイナリストはピストルを机に置き、聴衆に向かうように振り向かななければならない。アナウンサーは各ファイナリストをその氏名、国籍とそれぞれの短い情報によって紹介する。アナウンサーは射場長と担当ジュリーの紹介も行う。

6.17.1.12 ファイナルの手順とルール  
a) このルール（6.17）でカバーできない事態には、I S S F G T Rまたは各種目のルールが適用される。  
b) ファイナル控所での出頭報告の後、ファイナル開始時刻の20分前には、ファイナリストは自分の銃や用具を自分の射座に置くことが許されなければならない（25mピストル種目の場合は15分

- 前)。銃ケースや用具バッグはFOPに残して置いてはならない。その後、選手はウォームアップや準備のために射線に呼ばれるまで、控所に戻っておかなければならない。
- c) ライフルのファイナリストが控所から射線に呼ばれたとき、ファイナリストは完全な服装でジャケットやズボンのボタンやファスナーを閉じた状態で射線まで歩いていかなければならない。
- d) ファイナリストは、射線に呼ばれた後、銃を取り扱い、姿勢をとり、セフティフラッグをはずして居銃し、照準練習をすることができるが、“PREPARATION AND SIGHTING TIME START (プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” または “PREPARATION BEGINS NOW (プレパレーション ビギンズ ナウ)” (25 mピストル) の号令がかかるまで、空撃ちをすることはできない。
- e) ファイナルにおいて、空撃ちが許されるのは、6.17.4によって認められている25mラピッドファイアピストルのファイナル中の空撃ちを除き、準備および試射時間、姿勢の切換えと試射時間、または準備時間中に限られる。そのほかの時の空撃ちは、10mおよび50m種目においては1点、25mピストル種目においては1ポイントの減点とされなければならない。
- f) ファイナルにおいて、居銃および照準練習は、ファイナリストが射線に呼び出されて (“ATHLETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)” の号令) からファイナル終了の “STOP UNLOAD (ストップ アンロード)” の号令がかかるまでの間、居銃や照準練習のできない選手紹介の時間をのぞいて、行うことが許される。
- g) 10mまたは50mのファイナルでファイナリストが “PREPARATION AND SIGHTING TIME START (プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” の号令の前、または “FOR THE SIGHTING SERIES LOAD (フォー ザ サイティング シリーズ ロード)” の号令の前に弾を装填したり、発射した場合、そのファ

6.17.1.13 メダリストの紹介 射場長が“RESULTS ARE FINAL (リザルツ アー ファイナル)”と宣言した後、アナウンサーは即座にアナウンスによってメダリストを紹介しなければならない。  
 「金メダリストは、得点〇〇点、□□代表、△△△△選手です。」  
 「銀メダリストは、得点〇〇点、□□代表、△△△△選手です。」  
 「銅メダリストは、得点〇〇点、□□代表、△△△△選手です。」

- イナリストは失格とされなければならない。
- h) ファイナリストが“PREPARATION AND SIGHTING TIME STOP (プレパレーション アンド サイティング タイム ストップ)”の号令、または“CHANGOVER AND SIGHTING TIME STOP (チェンジオーバー アンド サイティング タイム ストップ)”の号令の後で、次の本射の“START (スタート)”の号令前に弾を発射した場合、その弾は本射として採点せず、さらに次の本射1発目に2点の減点が科せられる。
- i) 25mピストルのファイナルでファイナリストがシリーズの開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、そのシリーズは0ヒットと採点されなければならない。
- j) ファイナリストが1シリーズまたは1ショットの時間中に超過弾を撃った場合、その超過弾は無効とされ、さらに直前の正常弾に2点の減点が科せられる。
- k) セフティフラッグは準備および試射時間が始まるまで、銃に挿入されていなければならない。ファイナル中に脱落した選手は、銃口を安全な方向に向け、機関部を開放し、射座の床または机に、セフティフラッグを挿入した状態で、銃を置かなければならない。射場役員は、ファイナリストが銃を置き、射座から立ち去る際に、銃にセフティフラッグが挿入されているかを確認しなければならない。メダリストはファイナル終了直後、銃を持ってポーズをとることができるが、どの銃もセフティフラッグが挿入され、射場役員のチェックを受けるまで射座から持ち出すことはできない。

6.17.1.13 メダリストの紹介 射場長が“RESULTS ARE FINAL (リザルツ アー ファイナル)”と宣言した後、アナウンサーは即座にアナウンスによってメダリストを紹介しなければならない。  
「金メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」  
「銀メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」  
「銅メダリストは、□□代表、△△△△選手です。」



旧

p. 171

6. 17. 2 ファイナルー 1 0mエアライフル、エアピストル男子、女子および 5 0mピストル男子、ライフル伏射男子

ファイナルの様式	ファイナルは制限時間 1 5 0 秒で行われる 3 発の本射シリーズ 2 回 ( 5 0mライフル伏射の場合は制限時間 1 0 0 秒) とそれに続く、号令によって進行される制限時間 5 0 秒 ( 5 0m ライフル伏射は 3 0 秒) の 1 4 発の本射によって構成される。最下位ファイナリストの脱落は 8 発目のあとから開始され、2 発の本射が終わるごとに行われ、金および銀メダリストが決まるまで続けられる。ファイナルの本射は合計 2 0 発となる。
採点	ファイナルにおける採点は 0. 1 点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
用具準備時間 ( 2 0 分前)	選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の 2 0 分前には、銃や用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。銃ケースや用具の収納箱は FOP に置いておくことはできない。
ライフルウォームアップ時間 ( 1 8 分前)	射場長は開始時刻の 1 8 分前に選手を “ ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)” という号令で射座に入らせる。 2 分後、射場長は “ EIGHT MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (エイト ミニッツ プレパレーション アンド サイトイング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。 準備および試射時間の終了 3 0 秒前に、射場長は “ 3 0 SEC

新

6. 17. 2 ファイナルー 1 0mエアライフル、エアピストル男子、女子および 5 0mピストル男子、ライフル伏射男子

注) 時間進行がガイドラインとしてこのルールの中で示されているが、正確な時間進行については ISSF 本部にある “Commands and Announcements for Finals” をチェックすること。

a) ファイナルの様式	ファイナルは制限時間 1 5 0 秒で行われる 3 発の本射シリーズ 2 回 ( 5 0mライフル伏射の場合は制限時間 1 0 0 秒) とそれに続く、号令によって進行される制限時間 5 0 秒 ( 5 0m ライフル伏射は 3 0 秒) の 1 4 発の本射によって構成される。最下位ファイナリストの脱落は 8 発目のあとから開始され、2 発の本射が終わるごとに行われ、金および銀メダリストが決まるまで続けられる。ファイナルの本射は合計 2 0 発となる。
b) 採点	ファイナルにおける採点は 0. 1 点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
c) 用具準備時間 ( 2 0 分前)	選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の 2 0 分前には、銃や用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。銃ケースや用具の収納箱は FOP に置いておくことはできない。
d) ライフルウォームアップ時間 ( 1 6 分前)	射場長は開始時刻の <u>1 6</u> 分前に選手を “ ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)” という号令で射座に入らせる。 2 分後、射場長は “ EIGHT MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (エイト ミニッツ プレパレーション アンド サイトイング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。 準備および試射時間の終了 3 0 秒前に、射場長は “ 3 0 SEC

旧

	<p>ONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>8分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ライフルを置いて、紹介に備えて観客の方に振り返る。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>ピストル ウォームアップ 時間 (13分前)</p>	<p>射場長は開始時刻の13分前に選手を “ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)” という号令で射座に入らせる。</p> <p>2分後、射場長は “FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備と試射時間の終了30秒前に、射場長は “30 SECONDS (サーティ セカンズ)” と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはピストルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ピストルを置いて、紹介に備えて観客の方に振り返る。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>ファイナリスト の 紹介 (5分前)</p>	<p>ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、担当ジュリーをルール6.17.1.11に従って紹介する。</p>

新

	<p>ONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>8分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、紹介に備える。<u>射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。選手はファイナリストの紹介の間、姿勢を維持することはできるが、ライフルは肩からはずしておかなければならない。また、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けてくれることを期待している。ファイナリスト全員の紹介が終わるまで、ライフルは肩からはずしたままにしておかなければならない。</u></p>
<p>e) ピストル ウォームアップ 時間 (13分前)</p>	<p>射場長は開始時刻の13分前に選手を “ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)” という号令で射座に入らせる。</p> <p>2分後、射場長は “FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... START (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この時間には、ファイナリストは制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備と試射時間の終了30秒前に、射場長は “30 SECONDS (サーティ セカンズ)” と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはピストルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ピストルを置いて、紹介に備えて観客の方に振り返る。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>

旧

<p>最終試射時間 (ライフルのみ)</p>	<p>紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITION S (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかける。 30秒後、射場長は“FINAL SIGHTING TIME... START (ファイナル サイティング タイム スタート)”と号令する。 試射時間終了の30秒前に射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。 2分間たったら、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。このとき技術役員は本射に向け、標的の表示をクリアしなければならない。</p>
<p>最終準備時間 (ピストルのみ)</p>	<p>紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITION S (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかける。 標的およびスコアボードは本射に向けクリアされてなければならない。 60秒後、射場長は本射第一シリーズの号令をかける。</p>
<p>第一ステージ 2×3発 制限時間：150秒 (伏射は100秒) 各シリーズ</p>	<p>射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 ファイナリストは150秒で3発を撃つ。残り時間を秒単位で表示するカウントダウン時計がファイナリストの標的表示装置に提示されるべきである。もしもカウントダウン時計を射座のファイナリストが見ることができない場合は、射場長はシリーズごとに残り時間を示す“TEN (テン)”と“FIVE (ファイブ)”をアナウンスしなければならない。 150秒後(伏射は100秒後)または全ファイナリストが3発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。 “STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR TH</p>

新

<p>f) ファイナリスト の紹介 (5分30秒前)</p>	<p>ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、担当ジュリーをルール6.17.1.11に従って紹介する。</p>
<p>← 削除</p>	
<p>g) 最終準備時間</p>	<p>紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITION S (テイク ユア ポジションズ)”と号令をかける。 標的およびスコアボードは本射に向けクリアされてなければならない。 60秒後、射場長は本射第一シリーズの号令をかける。</p>
<p>h) 第一ステージ 2×3発 制限時間：150秒 (伏射は100秒) 各シリーズ</p>	<p>射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 ファイナリストは150秒で3発を撃つ。150秒後(伏射は100秒後)または全ファイナリストが3発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。 “STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ネクスト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 150秒後(伏射は100秒後)または全ファイナリストが3発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。 アナウンサーは再び選手とその成績についてコメントをし、この後1発ずつのステージに変わり、2発ごとに最下位のファイナリストが脱落していくことを説明する。</p>

旧

	<p>E NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>150秒後(伏射は100秒後)または全ファイナリストが3発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p> <p>アナウンサーは再び選手とその成績についてコメントをし、この後1発ずつのステージに変わり、2発ごとに最下位のファイナリストが脱落していくことを説明する。</p>
<p>第二ステージ 単発 14×1発 制限時間：50秒 (伏射は30秒) 各1発</p>	<p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>1発の制限時間は50秒(伏射は30秒)。</p> <p>50秒(伏射は30秒)後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかけ、アナウンサーはファイナリストとその得点についてコメントする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>この手順を第二十発目(第二ステージ14発)まで繰り返す。</p> <p>第二十発目が終了したら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。射場役員は銃の薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>エリミネーション</p>	<p>ファイナリストが第八発目を撃ち終わった後、最下位のファイナリストは脱落させられる(第八位)。以下、次のように最下位のファイナリストが脱落してゆく。</p>

新

<p>i) 第二ステージ 単発 14×1発 制限時間：50秒 (伏射は30秒) 各1発</p>	<p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>1発の制限時間は50秒(伏射は30秒)。</p> <p>50秒(伏射は30秒)後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかけ、アナウンサーはファイナリストとその得点についてコメントする。</p> <p>アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>この手順を第二十発目(第二ステージ14発)まで繰り返す。</p> <p>第二十発目が終了したら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。射場役員は銃の薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>j) エリミネーション</p>	<p>ファイナリストが第八発目を撃ち終わった後、最下位のファイナリストは脱落させられる(第八位)。以下、次のように最下位のファイナリストが脱落してゆく。</p> <p>第十発目の後・・・第七位 第十二発目の後・・・第六位 第十四発目の後・・・第五位 第十六発目の後・・・第四位 第十八発目の後・・・第三位(銅メダリストの決定) 第二十発目の後・・・第二位と第一位(銀、金メダリストの決定)</p> <p>脱落したファイナリストは、抜弾し、セフティフラッグを挿入した銃をその場に置き、射座から離れなければならない。射場役員は銃が安全な状態になっていることを確認しなければならない。</p>

旧

	<p>第十発目の後・・・第七位                  第十二発目の後・・・第六位                  第十四発目の後・・・第五位                  第十六発目の後・・・第四位                  第十八発目の後・・・第三位（銅メダリストの決定）                  第二十発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）                  脱落したファイナリストは、抜弾し、セフティフラッグを挿入した銃をその場に置き、射座から離れなければならない。射場役員は銃が安全な状態になっていることを確認しなければならない。</p>
同点の順位決定	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。                  同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
ファイナルの終了	<p>残った2名のファイナリストが第二十発目を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。                  アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストをアナウンスする（6.17.1.13）。</p>

新

<p>k)                  同点の順位決定</p>	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。                  同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
<p>l)                  ファイナルの終了</p>	<p>残った2名のファイナリストが第二十発目を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。                  アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストをアナウンスする（6.17.1.13）。</p>

旧

6.17.3 ファイナルー50mライフル三姿勢男子、女子

ファイナルの様式	ファイナルは各姿勢（膝射、伏射、立射の順）15発の号令による本射で構成される。ファイナルは各シリーズ200秒の膝射5発のシリーズを3回行うことから始まる。姿勢の切換えおよび試射の7分間の後、ファイナリストは各シリーズ150秒の伏射5発のシリーズを3回行う。次に姿勢の切換えおよび試射の9分間の後、各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。ファイナルは1発50秒の立射5発となり、残った選手で1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終弾を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは45発撃つことになる。
採点	ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
用具準備時間 (20分前)	選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の20分前には、ライフルや用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢の変更に伴う銃の付属品や用具は射座内に置いておくことのできる1個の箱（サイズ未定）の中に入れておかなければならない。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。
準備および試射時間 膝射 5分間 (12分前)	射場長は開始時刻の12分前に選手を“ATHLETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。この号令の後、ファイナリストはライフルを扱ったり、膝射姿勢をとったり、据銃、照準練習ができる。ただしセフティフラッグを引き抜いたり、空撃ち練習はできない。2分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... STAR

新

6.17.3 ファイナルー50mライフル三姿勢男子、女子

a) ファイナルの様式	ファイナルは各姿勢（膝射、伏射、立射の順）15発の号令による本射で構成される。ファイナルは各シリーズ200秒の膝射5発のシリーズを3回行うことから始まる。姿勢の切換えおよび試射の7分間の後、ファイナリストは各シリーズ150秒の伏射5発のシリーズを3回行う。次に姿勢の切換えおよび試射の9分間の後、各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。ファイナルは1発50秒の立射5発となり、残った選手で1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終弾を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは45発撃つことになる。
b) 採点	ファイナルにおける採点は0.1点刻みで行われる。ファイナルでの得点は加算されその合計点によりファイナルの成績が決まる。同点の場合はシュートオフの成績に従って決められる。本射第一発目に前に起こった反則に対する減点は本射第一発目の成績に科せられる。その他の時点での反則に対する減点はその反則の起こった本射弾の得点に科せられる。
c) 用具準備時間 (20分前)	選手および選手のコーチは、少なくとも開始時刻の20分前には、ライフルや用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。姿勢の変更に伴う銃の付属品や用具は射座内に置いておくことのできる1個の箱（サイズ未定）の中に入れておかなければならない。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。
d) 準備および試射時間 膝射 (13分前)	射場長は開始時刻の13分前に選手を“ATHLETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令で射座に入らせる。この号令の後、ファイナリストはライフルを扱ったり、膝射姿勢をとったり、据銃、照準練習ができる。ただしセフティフラッグを引き抜いたり、空撃ち練習はできない。2分後、射場長は“FIVE MINUTES PREPARATION AND SIGHTING TIME... STAR

旧

	<p>T (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ファイナリストの紹介に備える。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
ファイナリストの紹介 (2分前)	<p>ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、ジュリーをルール6.17.1.11に従って紹介する。選手はファイナリストの紹介の間、膝射姿勢を維持することができるが、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けたり、手をあげてくれることを期待している。これに加えて、姿勢の切換えと試射の時間にもそれぞれのファイナリストの写真や情報が提示されるべきである。</p>
膝射 3×5発 制限時間：200秒 各シリーズ	<p>紹介の直後、射場長は“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは200秒で5発を撃つ。</p> <p>残り時間を秒単位で表示するカウントダウン時計がファイナリストの標的表示装置に提示されるべきである。もしもカウントダウン時計を射座のファイナリストが見ることができない場合は、射場長はシリーズごとに残り時間を示す“TEN (テン)”と“FIVE (ファイブ)”をアナウンスしなければならない。</p> <p>200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場</p>

新

	<p>T (ファイブ ミニッツ プレパレーション アンド サイティング タイム スタート)” という号令によって準備と試射の一緒になった時間を開始する。この号令の後、ファイナリストはセフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。</p> <p>準備および試射時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。</p> <p>5分後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。</p> <p>試射中は得点のアナウンスは行わない。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の後、ファイナリストはライフルを抜弾し、セフティフラッグを挿入し、ファイナリストの紹介に備える。射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。<u>選手はファイナリストの紹介の間、姿勢を維持することはできるが、ライフルは肩からはずしておかなければならない。また、観客や選手紹介を撮影しているTVカメラに顔を向けてくれることを期待している。</u></p>
e) ファイナリストの紹介 (5分30秒前)	<p>ファイナリストの銃のチェックの後、アナウンサーは選手、射場長、ジュリーをルール6.17.1.11に従って紹介する。<u>ファイナリスト全員の紹介が終わるまで、ライフルは肩からはずしたままにしておかなければならない。</u></p>
f) 膝射 3×5発 制限時間：200秒 各シリーズ	<p>紹介の直後、射場長は“<u>TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)</u>”と号令をかけ、60秒後、“FOR THE FIRST COMPETITION SERIES... LOAD (フォー ザ ファースト コンペティション シリーズ ロード)”と号令をかける。</p> <p>5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。</p> <p>ファイナリストは200秒で<u>膝射の本射シリーズの5発を撃つ</u>。200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p>

旧

新

	<p>長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。  “STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。  アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。  5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。  200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。  アナウンサーは順位について付け加えのコメントをする。  アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。  5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。  200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。  射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>		<p>“STOP (ストップ)”の号令の直後、アナウンサーは15～20秒で、現在の選手の順位と特筆すべき成績についてコメントする。個々の得点はアナウンスしない。  アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。  5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。  200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。  アナウンサーは順位について付け加えのコメントをする。  アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。  5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。  200秒後または全ファイナリストが5発を撃ち終えたら、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。  射場役員は銃の薬室が開けられて、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>姿勢の切換えと  試射  伏射  7分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“SEVEN MINUTES CHANGEVER AND SIGHTING TIME... START (セブン ミニッツ チェンジオーバー アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは伏射に向けライフルを扱ったり、伏射姿勢をとったり、セフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。  姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射を終えてのファイ</p>	<p>g)  姿勢の切換えと  試射  伏射  7分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“SEVEN MINUTES CHANGEVER AND SIGHTING TIME... START (セブン ミニッツ チェンジオーバー アンド サイティング タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは伏射に向けライフルを扱ったり、伏射姿勢をとったり、セフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。  姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。アナウンサーは</p>



旧

	<p>ナリストの順位や得点についてコメントをする。アナウンサーはこの時間を利用して各ファイナリストの人物紹介も行える。姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。7分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>
<p>伏射 3×5発 制限時間：150秒 各シリーズ</p>	<p>30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。ファイナリストは150秒で5発を撃つ。同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが伏射5発のシリーズを3回終了するまで繰り返される。第三シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。射場役員は銃の薬室が開けられて、セーフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>姿勢の切換えと 試射 立射 9分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“NINE MINUTES CHANGEOVER AND SIGHTING TIME... START (ナイン ミニッツ チェンジオーバーアンドサイティング タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは立射に向けライフルを扱ったり、立射姿勢をとったり、セーフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射、伏射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。9分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。</p>

新

	<p>“この時間を利用して各ファイナリストの人物紹介も行える。姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。7分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>
<p>h) 伏射 3×5発 制限時間：150秒 各シリーズ</p>	<p>30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける。5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。ファイナリストは150秒で<b>伏射の本射シリーズ</b>の5発を撃つ。同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが伏射5発のシリーズを3回終了するまで繰り返される。第三シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”と号令をかける。射場役員は銃の薬室が開けられて、セーフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
<p>i) 姿勢の切換えと 試射 立射 9分間</p>	<p>“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令の直後、射場長は姿勢切換えと試射の時間を“NINE MINUTES CHANGEOVER AND SIGHTING TIME... START (ナイン ミニッツ チェンジオーバーアンドサイティング タイム スタート)”という号令によって開始しなければならない。この号令の後、ファイナリストは立射に向けライフルを扱ったり、立射姿勢をとったり、セーフティフラッグを引き抜き、空撃ち練習や制限弾数無しの試射を行える。姿勢切換えが始まった後、アナウンサーは膝射、伏射を終えてのファイナリストの順位や得点についてコメントをする。姿勢切換えと試射の時間の終了30秒前に、射場長は“30 SECONDS (サーティ セカンズ)”と号令する。9分後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。</p>

旧

	技術役員が標的を本射に切換え、表示装置をクリアにするために、30秒の中断時間をとる。
立射 2×5発 制限時間：250秒 各シリーズ 5×1発 制限時間：50秒 各1発	30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 ファイナリストは250秒で5発を撃つ。 同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射5発のシリーズを2回終了するまで繰り返される。 射場長の第二シリーズの“STOP (ストップ)”の号令の後、第八位と第七位のファイナリストが脱落する。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 1発の制限時間は50秒。制限時間の残り時間については引き続き、各選手が確認し続けられるようにしなければならない。 50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。 射場長とアナウンサーはこの号令とアナウンスの手順を、金メダリストが決まる最終弾まで繰り返す。
エリミネーション	立射の第二シリーズが終了した後、ファイナリストが下位のファイナリスト2名は脱落させられる(第四十発目 第八位と第七位)。以下、次のように1発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。 第四十一発目の後・・・第六位 第四十二発目の後・・・第五位 第四十三発目の後・・・第四位 第四十四発目の後・・・第三位(銅メダリストの決定)

新

j) 立射 2×5発 制限時間：250秒 各シリーズ 5×1発 制限時間：50秒 各1発	30秒後、射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SERIES... LOAD (フォーザネクストコンペティションシリーズロード)”と号令をかける 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 ファイナリストは250秒で立射の本射シリーズの5発を撃つ。 同様の号令とアナウンスの手順が、全ファイナリストが立射5発のシリーズを2回終了するまで繰り返される。 射場長の第二シリーズの“STOP (ストップ)”の号令の後、第八位と第七位のファイナリストが脱落する。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。 アナウンサーのコメントが終了しだい射場長は“FOR THE NEXT COMPETITION SHOT... LOAD (フォーザネクストコンペティションショットロード)”と号令をかける。 5秒後、射場長は“START (スタート)”の号令をかける。 1発の制限時間は50秒。制限時間の残り時間については引き続き、各選手が確認し続けられるようにしなければならない。 50秒後または全ファイナリストが撃発後、射場長は“STOP (ストップ)”と号令をかける。アナウンサーは脱落する選手を確認し、この結果についてコメントする。 射場長とアナウンサーはこの号令とアナウンスの手順を、金メダリストが決まる最終弾まで繰り返す。
k) エリミネーション	立射の第二シリーズが終了した後、ファイナリストが下位のファイナリスト2名は脱落させられる(第四十発目 第八位と第七位)。以下、次のように1発終了するごとに最下位のファイナリストが脱落してゆく。 第四十一発目の後・・・第六位 第四十二発目の後・・・第五位 第四十三発目の後・・・第四位 第四十四発目の後・・・第三位(銅メダリストの決定) 第四十五発目の後・・・第二位と第一位(銀、金メダリストの決定)

旧

	<p>第四十五発目の後・・・第二位と第一位（銀、金メダリストの決定）</p> <p>脱落したファイナリストは、抜弾し、セフティフラッグを挿入したライフルをその場に置き、射座から離れなければならない。射場役員は薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
同点の順位決定	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。</p> <p>同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
ファイナルの終了	<p>残った2名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。</p> <p>アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストをアナウンスする（6.17.1.13）。</p>
姿勢の切換え	<p>選手は、射場長が姿勢の切換えおよび試射時間の“START（スタート）”の号令をかけるまで、次の姿勢への切換えに入ってはならない。1回目の違反には警告が与えられる。2回目の違反には次のシリーズの第一発目に2点の減点が科せられる。</p>

新

	<p>脱落したファイナリストは、抜弾し、セフティフラッグを挿入したライフルをその場に置き、射座から離れなければならない。射場役員は薬室が開けられセフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>
l) 同点の順位決定	<p>もし脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、同点の選手は順位決定ができるまでシュートオフを行う。</p> <p>同点のシュートオフを行う場合は、射場長は同点の選手の苗字をアナウンスし、通常の手順に従い同点決定のシュートオフの号令をかける。アナウンサーは順位が決まるまではコメントをしない。</p>
m) ファイナルの終了	<p>残った2名のファイナリストが最終弾を撃ち終わった後、同点も抗議もなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルツ アー ファイナル）”と宣言する。</p> <p>アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストをアナウンスする（6.17.1.13）。</p>
n) 姿勢の切換え	<p>選手は、射場長が姿勢の切換えおよび試射時間の“START（スタート）”の号令をかけるまで、次の姿勢への切換えに入ってはならない。1回目の違反には警告が与えられる。2回目の違反には次のシリーズの第一発目に2点の減点が科せられる。</p>

旧

6.17.4 ファイナルー25mラピッドファイアピストル男子

ファイナルの様式	ラピッドファイアピストル男子のファイナルは4秒射の5発シリーズのヒットオアミススコアによる8シリーズで構成され、4シリーズ目から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる8シリーズまで続けられる。
標 的	25mESTの5的グループ3つを使用しなければならない。それぞれの5的グループに2名ずつファイナリストが割り当てられる。射座は本選成績従って、左から順に割り当てられる。各標的グループには1.50m×1.50mの射撃位置（射座）が設定される。各標的グループに割り当てられた2名のファイナリストは射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのときそれぞれの選手は、6.4.11.7に示された射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。
採 点	ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは1ポイント、各ミスは0ポイントととして数えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となる。 ファイナルにおける得点の合計（合計ヒット数）により順位が決められる。同点の場合はシュートオフの成績によって順位を決定される。
出頭時刻 30分前と15分 前	選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。 Juryは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていない）も含まれる。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。 射場長は開始時刻の10分前に“ATHELETES TO THE LINE（アスリート トゥ ザ ライン）”という

新

6.17.4 ファイナルー25mラピッドファイアピストル男子

a) ファイナルの様式	<b>25m</b> ラピッドファイアピストル男子のファイナルは4秒射の5発シリーズのヒットオアミススコアによる8シリーズで構成され、4シリーズ目から最下位のファイナリストの脱落が開始され、金および銀メダリストの決まる8シリーズまで続けられる。
b) 標 的	25mESTの5的グループ3つを使用しなければならない。それぞれの5的グループに2名ずつファイナリストが割り当てられる。各標的グループには1.50m×1.50mの射撃位置（射座）が設定される。各標的グループに割り当てられた2名のファイナリストは射撃位置の左右の両端で射撃姿勢をとらなければならない。そのときそれぞれの選手は、6.4.11.7に示された射撃位置の左右に描かれた線に少なくとも片足が触れていなければならない。
c) 採 点	ファイナルでの採点はヒットオアミススコアであり、各ヒットは1ポイント、各ミスは0ポイントととして数えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の9.7点の範囲となる。 ファイナルにおける得点の合計（合計ヒット数）により順位が決められる。同点の場合はシュートオフの成績によって順位を決定される。
d) 出頭時刻 30分前と15分 前	選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。 Juryは選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていない）も含まれる。
	射場長は開始時刻の10分前に“ATHELETES TO THE LINE（アスリート トゥ ザ ライン）”という号をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BE

	旧		新
<p>準備時間と試射 10分前</p>	<p>号令をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW (プレパレイション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。</p> <p>2分後、射場長は“END OF PREPARATION (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズは4秒射5発で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD (フォー ザ サイトイング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の30秒後、射場長は各標的グループの左側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #1, FAMILY NAME OF ATHLETE #3, FAMILY NAME OF ATHLETE #5)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、緑ランプが点灯する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>技術役員が標的の準備ができたことを知らせてきたら、射場長は各標的グループの右側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #2, FAMILY NAME OF ATHLETE #4, FAMILY NAME OF ATHLETE #6)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、4秒射1シリーズが進行する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。全ファイナリストの試射シリーズが完了した後、選手は抜弾したピストル</p>	<p>e) 準備時間と試射 10分前</p>	<p>GINNS NOW (プレパレイション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。</p> <p>2分後、射場長は“END OF PREPARATION (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。</p> <p>試射シリーズは4秒射5発で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD (フォー ザ サイトイング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の30秒後、射場長は各標的グループの左側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #1, FAMILY NAME OF ATHLETE #3, FAMILY NAME OF ATHLETE #5)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、緑ランプが点灯する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>技術役員が標的の準備ができたことを知らせてきたら、射場長は各標的グループの右側の選手の苗字を読み上げる“(FAMILY NAME OF ATHLETE #2, FAMILY NAME OF ATHLETE #4, FAMILY NAME OF ATHLETE #6)”。選手の苗字が呼ばれた後、その選手たちはピストルに弾倉を入れ、撃つ準備をすることができる。</p> <p>この選手の苗字の読み上げの15秒後に、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、4秒射1シリーズが進行する。4秒間の射撃時間の後、赤ランプが10～14秒間点灯する(標的の復旧時間)。この10～14秒間に選手は標的モニターを見ることができる。</p> <p>試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。全ファイナリストの試射シリーズが完了した後、選手は抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観</p>

旧

	にセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認しなければならない。
ファイナリストの紹介 5分前	ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.11に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。
号令と射撃の詳細手順	<p>ファイナルのそれぞれの本射シリーズは4秒射5発のシリーズで構成される。それぞれのシリーズは競技に残っている全ての選手が一人ずつ順に撃っていく。射撃は全てのシリーズにおいて左から右の順に行われる。</p> <p>選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。選手紹介から30秒後、射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。“LOAD (ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2はファイナルでは適用されない)。本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の後、選手は照準練習、腕の振り上げ、空撃ちを、同じ5的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ5的の標的グループの右射座の選手は、その間、準備のためにピストルを手取ることはできるが、照準練習と腕の振り上げ、空撃ちはできない。左射座の選手は撃ち終わった後、右射座の選手が射撃している間は、ピストルを置いて射撃位置から下がっているかまたは動かないようにしなければならない。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“[選手1の苗字]”と最初の選手を呼び出す。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。最初の選手の名前を呼んで15秒後、射場長は“ATTENT</p>

新

	客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、銃身や弾倉に弾が残っていないことを確認しなければならない。
f) ファイナリストの紹介 4分45秒前	ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.11に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。
g) 号令と射撃の詳細手順	<p>ファイナルのそれぞれの本射シリーズは4秒射5発のシリーズで構成される。それぞれのシリーズは競技に残っている全ての選手が一人ずつ順に撃っていく。射撃は全てのシリーズにおいて左から右の順に行われる。</p> <p>選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。選手紹介から15秒後、射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。“LOAD (ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2.dはファイナルでは適用されない)。本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の後、選手は照準練習、腕の振り上げ、空撃ちを、同じ5的の標的グループについている選手が射撃している間を除いて、行うことができる。射撃をしている選手と同じ5的の標的グループの右射座の選手は、その間、準備のためにピストルを手取ることはできるが、照準練習と腕の振り上げ、空撃ちはできない。左射座の選手は撃ち終わった後、右射座の選手が射撃している間は、ピストルを置いて射撃位置から下がっているかまたは動かないようにしなければならない。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“[選手1の苗字]”と最初の選手を呼び出す。名前が呼ばれた後、その選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。最初の選手の名前を呼んで15秒後、射場長は“ATTENT</p>

旧

	<p>I O N (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。最初の選手はレディーポジションを取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～14秒間(標的の復旧時間)赤色ランプが点灯する。この10～14秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする(例:4ヒッツなど)。</p> <p>最初の選手の得点が発表された直後、技術役員が標的の準備ができた合図をする。射場長は“[選手2の苗字]”と声をかける。15秒後、“ATTENTION (アテンション)”の号令がかけられ、そのシリーズの手順が開始される。シリーズ後、射場長が得点を発表する。</p> <p>他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、順に撃ち続ける。</p> <p>全ての選手が1シリーズを撃ち終わった後、15～20秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。</p> <p>第2シリーズのために、射場長は“[選手1の苗字]”と声をかけ、この手順を全ファイナリストが4シリーズを撃ち終わるまで続ける。</p>
<p>エリミネーション</p>	<p>全てのファイナリストが第4シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が脱落する(6位)。この後、次のように各シリーズ終了ごとに一人ずつ選手が脱落していく。</p> <p>5シリーズ後・・・5位 6シリーズ後・・・4位 7シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定) 8シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)</p> <p>脱落した選手は、立ち去る前に、ピストルを抜弾(弾倉をはずし薬室を開放しセフティフラッグを挿入する)し、ベンチに置かなければならない。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされ、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。</p>

新

	<p>I O N (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。最初の選手はレディーポジションを取らなければならない。7秒後に緑色ランプが点灯する。4秒射の後、10～14秒間(標的の復旧時間)赤色ランプが点灯する。この10～14秒間に、射場長はそのシリーズの得点の発表をする(例:4ヒッツなど)。</p> <p>最初の選手の得点が発表された直後、技術役員が標的の準備ができた合図をする。射場長は“[選手2の苗字]”と声をかける。15秒後、“ATTENTION (アテンション)”の号令がかけられ、そのシリーズの手順が開始される。シリーズ後、射場長が得点を発表する。</p> <p>他の選手は、競技に残った全ての選手がそのシリーズを撃ち終わるまで、順に撃ち続ける。</p> <p>全ての選手が1シリーズを撃ち終わった後、15～20秒間の中断がある。この中断時間中に、アナウンサーは選手の最新順位、ベストスコア、敗退する選手などのコメントを行う。</p> <p>第2シリーズのために、射場長は“[選手1の苗字]”と声をかけ、この手順を全ファイナリストが4シリーズを撃ち終わるまで続ける。</p>
<p>h) エリミネーション</p>	<p>全てのファイナリストが第4シリーズを撃ち終わった後、最下位の選手が脱落する(6位)。この後、次のように各シリーズ終了ごとに一人ずつ選手が脱落していく。</p> <p>5シリーズ後・・・5位 6シリーズ後・・・4位 7シリーズ後・・・3位(銅メダリストの決定) 8シリーズ後・・・2位と1位(銀および金メダリストの決定)</p>
<p>l) 同点の順位決定</p>	<p>脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレイキングシリーズ(4秒射)を同点が解消されるまで行う。どのタイブレイキングシリーズも左側の選手から開始される。</p> <p>タイブレイキングシリーズでは、射場長はすぐに“[該当選手の苗字]”の号令をかけて最初の同点の選手の名前を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。</p>

旧

<p>同点の順位決定</p>	<p>脱落すべき最下位の選手が同点であった場合、その同点の選手は追加のタイブレイキングシリーズ（4秒射）を同点が解消されるまで行う。どのタイブレイキングシリーズも左側の選手から開始される。 タイブレイキングシリーズでは、射場長はすぐに“[該当選手の苗字]”の号令をかけて最初の同点の選手の名前を呼び、その後は通常の射撃手順が行われる。 アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p>
<p>ファイナルの完了</p>	<p>2名の残ったファイナリストが第8シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルト アー ファイナル）”と宣言する。アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストの発表を行う（6.17.1.13）。 ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。</p>
<p>遅発 （LATE SHOTS）</p>	<p>選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5的を撃ちきれなかった場合、オーバータイムショットまたは未発射弾1発につき1ヒットの減点はそのシリーズのスコアに科せられる。その遅発は“OT”と表示される。</p>
<p>READYポジション （8.7.2、8.7.3）</p>	<p>ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット減点されなければならない（グリーンカード）。ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合選手は失格とされなければならない（レッドカード）。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を科す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示（旗をあげるなど）をしなければならない。</p>

新

	<p>アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p>
<p>j) ファイナルの完了</p>	<p>2名の残ったファイナリストが第8シリーズを撃ち終わった後、同点や抗議がなければ、射場長は“RESULTS ARE FINAL（リザルト アー ファイナル）”と宣言する。アナウンサーは即座に金、銀、銅メダリストの発表を行う（6.17.1.13）。 ファイナリストやコーチが射撃線からピストルを動かす前に、射場役員は薬室が開放され、セフティフラッグが挿入され、弾倉がはずされ、弾倉からも抜弾されていることを確認するためにピストルをチェックしなければならない。ピストルは射撃線から去る前にケースに収納されていなければならない。</p>
<p>k) 遅発 （LATE SHOTS）</p>	<p>選手がレイトショットを撃ったり、時間内に全5的を撃ちきれなかった場合、オーバータイムショットまたは未発射弾1発につき1ヒットの減点はそのシリーズのスコアに科せられる。その遅発は“OT”と表示される。</p>
<p>l) READYポジション （8.7.2、8.7.3）</p>	<p>ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得点から2ヒット減点されなければならない（グリーンカード）。ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、選手は失格とされなければならない（レッドカード）。レディーポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を科す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上げが早すぎたことを示す表示（旗をあげるなど）をしなければならない。</p>
<p>m) 故障 （8.9）</p>	<p>試射中の故障については申告も再射もできない。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確かめなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを再射しなければならず、その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対しては再射は許されず、表示されたヒット数が加算される。</p>



旧

<p>故障 (8.9)</p>	<p>試射中の故障については申告も再射もできない。本射中に故障が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容できないものかを確認しなければならない。許容できる故障ならば、選手はそのシリーズを再射しなければならない。その再射シリーズの得点が採用される。選手は再射シリーズの準備のために15秒与えられる。これ以外の故障に対しては再射は許されず、表示されたヒット数が加算される。 もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から2ヒットの減点が科せられなければならない。</p>
---------------------	--

新

	<p>もしその故障が許容できないものであったなら、そのシリーズの得点から2ヒットの減点が科せられなければならない。</p>
--	---

旧	
6.17.5	ファイナルー25mピストル女子
ファイナルの様式	25mピストル女子のファイナルは、セミファイナルと2つのメダルマッチの2つのステージで構成される。すべての得点はヒットオアミスによる。セミファイナルは5発の速射シリーズの5シリーズから成る。8名のファイナリスト全員がセミファイナルに参加する。メダルマッチはセミファイナルで1位と2位になった選手が金メダルと銀メダルを争い、3位と4位になった選手が銅メダルを争う。それぞれのメダルマッチはシリーズごとに高いヒットスコアを得た選手が2ポイント、同点の場合はそれぞれに1ポイントずつが与えられるポイント制で行われる。それぞれのメダルマッチで7ポイントを先取したものが勝者となる。
標 的	25mESTの5的グループ2つを使用しなければならない。セミファイナルではそれぞれの5的グループに4名ずつ、各グループの1、2、4、5的、6、7、9、10的に、ファイナリストが割り当てられる。 セミファイナル、メダルマッチにおける射座は本選成績従って、左から順に割り当てられる。
採 点	ファイナルは両ステージとも0点から始める。採点はヒットオアミススコアであり、ヒットゾーンにあたった弾、1発につき1ポイント与えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の10.3点の範囲となる。 セミファイナルにおける得点は加算され、各選手の最終成績は5シリーズの合計ヒット数により順位が決められる。同点の場合は同点の順位決定ルールが適用される。 メダルマッチにおいてはシリーズごとのポイント制となる。そのシリーズで高得点をあげた選手が2ポイントを獲得し、同点の場合は両選手に1ポイントずつが与えられる。7ポイントを先取したものが勝者となる。両選手が同じシリーズで7ポイントを獲得し同点となった場合、同点が解消されるまで追加のシリーズを行う。

新	
6.17.5	ファイナルー25mピストル女子
a) ファイナルの様式	25mピストル女子のファイナルは、セミファイナルと2つのメダルマッチの2つのステージで構成される。すべての得点はヒットオアミスによる。セミファイナルは5発の速射シリーズの5シリーズから成る。8名のファイナリスト全員がセミファイナルに参加する。メダルマッチはセミファイナルで1位と2位になった選手が金メダルと銀メダルを争い、3位と4位になった選手が銅メダルを争う。それぞれのメダルマッチはシリーズごとに高いヒットスコアを得た選手が2ポイント、同点の場合はそれぞれに1ポイントずつが与えられるポイント制で行われる。それぞれのメダルマッチで7ポイントを先取したものが勝者となる。
b) 標 的	25mESTの5的グループ2つを使用しなければならない。セミファイナルではそれぞれの5的グループに4名ずつ、各グループのA、B、D、E的、F、G、I、J的に、 <u>ファイナリストが割り当てられる。</u> <u>メダルマッチでは、2名の選手はC的とH的に割り当てられる。メダルマッチにおける射座割はセミファイナルの射座割に従う（ファイナリストで左側にあたる射手がC的）。</u>
c) 採 点	ファイナルは両ステージとも0点から始める。採点はヒットオアミススコアであり、ヒットゾーンにあたった弾、1発につき1ポイント与えられる。ヒットゾーンの大きさは25mラピッドファイアピストル標的の10.2点の範囲となる。 セミファイナルにおける得点は加算され、各選手の最終成績は5シリーズの合計ヒット数により順位が決められる。同点の場合は同点の順位決定ルールが適用される。 メダルマッチにおいてはシリーズごとのポイント制となる。そのシリーズで高得点をあげた選手が2ポイントを獲得し、同点の場合は両選手に1ポイントずつが与えられる。7ポイントを先取したものが勝者となる。両選手が同じシリーズで7ポイントを獲得し同点となった場合、同点が解消されるまで追加のシリーズを行う。

旧

<p>出頭時刻 30分前と15分 前</p>	<p>選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは各選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていなければならない）も含まれる。銃ケースや用具の収納箱はFOPに置いておくことはできない。</p>
<p>コール 準備時間と試射 10分前</p>	<p>射場長は開始時刻の10分前に“ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW (プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。2分後、射場長は“END OF PREPARATION (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。試射シリーズは通常の速射5発(8.7.6.4)で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD (フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の後、選手は弾倉に弾を入れピストルに装着し、射撃の準備をすることができる。 “LOAD(ロード)”の号令の60秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令をかける。 試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令後、ファイナリストは抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入</p>

新

<p>d) 出頭時刻 30分前と15分 前</p>	<p>選手は開始時刻の30分前に用具と競技用の服装を携えて出頭しなければならない。ジュリーは各選手が出頭したら可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。選手および選手のコーチは、開始時刻の15分前には、ファイナルを行うに十分な弾薬を含む用具を射座に持ち込むことを許可されなければならない。選手の用具には故障したピストルに換えて使用する予備銃（セフティフラッグが挿入されていなければならない）も含まれる。</p>
<p>e) コール 準備時間と試射 12分前</p>	<p>射場長は開始時刻の12分前に“ATHELETES TO THE LINE (アスリート トゥ ザ ライン)”という号令をかける。1分後、射場長は“PREPARATION BEGINS NOW (プレパレーション ビギンズ ナウ)”という号令により2分間の準備時間を開始させる。2分後、射場長は“END OF PREPARATION (エンド オブ プレパレーション)”の号令をかける。試射シリーズは通常の速射5発(8.7.6.4)で行われる。準備時間の後直ちに、射場長は“FOR THE SIGHTING SERIES, LOAD (フォー ザ サイティング シリーズ ロード)”の号令をかける。この号令の後、選手は弾倉に弾を入れピストルに装着し、射撃の準備をすることができる。 “LOAD(ロード)”の号令の60秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、標的の赤ランプが点灯する。このとき選手はレディーポジションをとらなければならない(8.7.2)。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令をかける。 試射シリーズでは得点のアナウンスは行われぬ。“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令後、ファイナリストは抜弾したピストルにセフティフラッグを挿入して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は薬室が開放され、セフ</p>

旧

	して台に置き、選手紹介のために観客と向かい合わせになるように振り向かなければならない。射場役員は葉室が開放され、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
ファイナリストの紹介 5分前	ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.11に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。
第一競技ステージ セミファイナル	<p>選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。30秒後、最初の本射シリーズが開始される。射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2はファイナルでは適用されない)。</p> <p>本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかけ、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。</p> <p>“READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に赤色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。</p> <p>アナウンス終了30秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。</p>

新

	ティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。
f) ファイナリストの紹介 6分15秒前	ファイナリストの銃のチェック後、アナウンサーは、6.17.1.11に従い、選手、射場長、担当ジュリーを紹介する。
g) 第一競技ステージ セミファイナル	<p>選手の紹介の直後、射場長は“TAKE YOUR POSITIONS (テイク ユア ポジションズ)”の号令をかける。30秒後、最初の本射シリーズが開始される。射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。選手は1分間で2つの弾倉に装填する(8.7.6.2_dはファイナルでは適用されない)。</p> <p>本射第1シリーズの開始前に1回だけ“LOAD (ロード)”の号令がかけられる。ファイナル全体を通じて、選手は必要に応じて弾倉に装填を行うことができる。</p> <p>“LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかけ、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をする。</p> <p>“READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に赤色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。</p> <p>“STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーはファイナリストの順位と成績をコメントする。</p> <p>アナウンス終了30秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。</p> <p>この手順をファイナリストが5シリーズを撃ち終えるまで続ける。</p>

旧

	<p>この手順をファイナリストが5シリーズを撃ち終えるまで続ける。</p> <p>第5シリーズ終了後そして2位と4位に同点がなければ、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令をかける。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされて抜弾されており、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。選手は射座にピストルを置いて射座から下がらなければならない。</p> <p>技術役員がメダルマッチのための標的を準備するために、約2分間の休止がとられる。</p> <p>この間にアナウンサーは金メダルマッチおよび銅メダルマッチに進出した4人の選手と脱落した4人の選手を紹介する。</p>
エリミネーション	<p>ファイナリストが第5シリーズを撃ち終わった後、4人の下位選手が脱落する5位から8位までの順位はセミファイナルのヒット数の合計によって決められる。セミファイナルで3位と4位の選手は銅メダルマッチに進出し、1位と2位の選手は金メダルマッチに進出する。</p>
同点の順位決定	<p>セミファイナルを終えて、4位または2位において2名以上の選手が同点（合計ヒット数）あった場合、その同点の選手は追加のタイブレーキングシリーズ（速射5発）を同点が解消されるまで行う。</p> <p>タイブレーキングシリーズでは、射場長はすぐに該当選手たちの苗字を呼び、タイブレーキングシリーズを通常の手順で撃つように号令をかける。</p> <p>アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p> <p>セミファイナルにおけるその他の順位については、最終シリーズの成績からのシリーズカウントバックによって決められる。それでも同点が解消できない場合は、同点の選手の本選順位に従って最終順位が決められる。</p>
	<p>メダルマッチは技術役員が標的の準備が整った合図をしたときに開始される。2名の選手は各標的グループの中央の標的（3的および8的）の射座に入る。射座の決定は本選の順位に</p>

新

	<p>第5シリーズ終了後そして2位と4位に同点がなければ、射場長は“STOP... UNLOAD (ストップ アンロード)”の号令をかける。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされて抜弾されており、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。選手は射座にピストルを置いて射座から下がらなければならない。</p> <p>技術役員がメダルマッチのための標的を準備するために、約2分間の休止がとられる。</p> <p>この間にアナウンサーは金メダルマッチおよび銅メダルマッチに進出した4人の選手と脱落した4人の選手を紹介する。</p>
h) エリミネーション	<p>ファイナリストが第5シリーズを撃ち終わった後、4人の下位選手が脱落する5位から8位までの順位はセミファイナルのヒット数の合計によって決められる。セミファイナルで3位と4位の選手は銅メダルマッチに進出し、1位と2位の選手は金メダルマッチに進出する。</p>
i) 同点の順位決定	<p>セミファイナルを終えて、4位または2位において2名以上の選手が同点（合計ヒット数）あった場合、その同点の選手は追加のタイブレーキングシリーズ（速射5発）を同点が解消されるまで行う。</p> <p>タイブレーキングシリーズでは、射場長はすぐに該当選手たちの苗字を呼び、タイブレーキングシリーズを通常の手順で撃つように号令をかける。</p> <p>アナウンサーは同点が解消されるまでコメントはしない。</p> <p>セミファイナルにおけるその他の順位については、最終シリーズの成績からのシリーズカウントバックによって決められる。それでも同点が解消できない場合は、同点の選手の本選順位に従って最終順位が決められる。</p>
	<p>メダルマッチは技術役員が標的の準備が整った合図をしたときに開始される。2名の選手は各標的グループの中央の標的（C的およびH的）の射座に入る。</p> <p>メダルマッチは、射場長の“MS [選手の苗字] AND MS [選手の苗字]... TAKE YOUR POSITIONS (</p>

旧

新

<p>第二競技ステージ メダルマッチ</p>	<p>よって決まり、高順位であった選手が左の射座に入る。 メダルマッチは、射場長の“MS [選手の苗字] AND MS [選手の苗字]... TAKE YOUR POSITIONS (ミズ [選手の苗字] アンド ミズ [選手の苗字]... テイク ユア ポジションズ)”の号令で開始される。 30秒後、射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。“LOAD (ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する。 “LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかける。その後、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をすることができる。 “READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に緑色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。 “STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーは「2対0で〇〇選手がリードしています」のような、得点のアナウンスをする。また、アナウンサーはこのメダルマッチの2名の選手の状況についてコメントすることができる。 アナウンス終了30秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。 この手順を、どちらかの選手が7ポイント先取またはそれ以上で相手と1ポイント以上の点差ができるまで続ける。勝者が決まったら、射場長は“STOP... UNLOAD... RESULTS ARE FINAL (ストップ... アンロード... リザルト アー ファイナル)”の号令をかける。射場役員は薬</p>
----------------------------	---

<p>j) 第二競技ステージ メダルマッチ</p>	<p>ミズ [選手の苗字] アンド ミズ [選手の苗字]... テイク ユア ポジションズ)”の号令で開始される。 30秒後、射場長は“LOAD (ロード)”の号令をかける。“LOAD (ロード)”の号令後、選手は1分間で2つの弾倉に装填する。 “LOAD (ロード)”の号令の1分後、射場長は“FIRST SERIES... READY (ファースト シリーズ... レディー)”と号令をかける。その後、選手はピストルに弾倉を入れ、射撃の準備をすることができる。 “READY (レディー)”の号令の15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかけ、赤色ランプが点灯する。選手はレディーポジション(8.7.2)を取らなければならない。7秒後、シリーズ開始の合図として最初の3秒間緑ランプが点灯する。7秒後に緑色ランプが点灯する。シリーズ終了後、射場長は“STOP (ストップ)”の号令をかける。 “STOP (ストップ)”の号令後、アナウンサーは「2対0で〇〇選手がリードしています」のような、得点のアナウンスをする。また、アナウンサーはこのメダルマッチの2名の選手の状況についてコメントすることができる。 アナウンス終了30秒後に、射場長は“NEXT SERIES... READY (ネクスト シリーズ... レディー)”と号令をかける。15秒後、射場長は“ATTENTION (アテンション)”の号令をかける。 この手順を、どちらかの選手が7ポイント先取またはそれ以上で相手と1ポイント以上の点差ができるまで続ける。勝者が決まったら、射場長は“STOP... UNLOAD... RESULTS ARE FINAL (ストップ... アンロード... リザルト アー ファイナル)”の号令をかける。射場役員は薬室が開放され、弾倉がはずされて抜弾されており、セフティフラッグが挿入されていることを確認しなければならない。 アナウンサーは銅メダリストを紹介する。 選手や役員が金メダルマッチのための準備をするために、約2</p>
-----------------------------------	---

旧

	<p>室が開放され、弾倉がはずされて抜弾されており、セフティフ ラッグが挿入されていることを確認しなければならない。 アナウンサーは銅メダリストを紹介する。 選手や役員が金メダルマッチのための準備をするために、約2 分間の休止がとられる。 同様の手順が金メダルマッチで繰り返される。</p>
ファイナルの完了	<p>射場長が““RESULTS ARE FINAL (リザルツ アー ファイナル)”と、金メダルマッチで宣言した後、アナ ウンサーは即座に金、銀、銅メダリストの発表を行う。</p>
READYポジ ション (8.7.2)	<p>競技ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に 腕が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの 得点から2ヒット減点されなければならない(グリーンカード)。 ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、 選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディー ポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を科 す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上 げが早すぎたことを示す表示(旗をあげるなど)をしなければ ならない。</p>
故 障 (8.9)	<p>試射中の故障については申告も再射もできない。本射中に故障 が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容 できないものかを確認しなければならない。許容できる故障な らば、選手はそのシリーズを完射しなければならない。選手は シリーズの完射の準備のために15秒与えられる。各ファイナ ルステージにおいて1回のみ許容できる故障によるシリーズ の完射が許される。これ以上の故障に対する完射は許されず、 表示されたヒット数が加算される。</p>

新

	<p>分間の休止がとられる。 同様の手順が金メダルマッチで繰り返される。</p>
k) ファイナルの完了	<p>射場長が“RESULTS ARE FINAL (リザルツ ア ー ファイナル)”と、金メダルマッチで宣言した後、アナウン サーは即座に金、銀、銅メダリストの発表を行う。</p>
l) READYポジ ション (8.7.2)	<p>競技ジュリーが選手の腕の振り上げが早すぎるまたは十分に腕 が下がってなかったと判断した場合、選手はそのシリーズの得 点から2ヒット減点されなければならない(グリーンカード)。 ファイナルでは警告は与えられない。これが繰り返された場合、 選手は失格とされなければならない(レッドカード)。レディー ポジション違反の裁定を下す場合は、ペナルティーや失格を科 す前に、少なくとも2名の競技ジュリーが、選手の腕の振り上 げが早すぎたことを示す表示(旗をあげるなど)をしなければ ならない。</p>
m) 故 障 (8.9)	<p>試射中の故障については申告も再射もできない。本射中に故障 が発生した場合、射場役員はその故障が許容できるものか許容 できないものかを確認しなければならない。許容できる故障な らば、選手はそのシリーズを完射しなければならない。選手は シリーズの完射の準備のために15秒与えられる。各ファイナ ルステージにおいて1回のみ許容できる故障によるシリーズの 完射が許される。これ以上の故障に対する完射は許されず、表 示されたヒット数が加算される。</p>

旧

p. 188

6. 17. 6 ファイナルにおける抗議
- ・抗議は選手またはコーチの挙手によって即座に行われなければならない。
  - ・すべての抗議はファイナル抗議ジュリーによって即断されなければならない(3. 12. 3. 7、6. 16. 7 および6. 17. 1. 10. d)。ファイナル抗議ジュリーの裁定は最終であり、上訴はできない。
  - ・ファイナルにおける抗議が採用されない場合、2点または2ポイントの減点が科せられる。ファイナルでは抗議料は課せられない。

6. 17. 7

表彰式

6. 17. 8 金、銀、銅メダリストを讃える表彰式は各ファイナル後でできるだけ迅速に、3. 5. 8 に従って、行われることになる。表彰式の進行のISSF基準は、ISSF本部に用意されている、ファイナル射場と表彰式の認定ガイドラインに示されている。

6. 17. 9

ファイナル世界記録

25mピストル女子とショットガン種目を除き、すべてのオリンピック種目のファイナル世界記録を設定する。

p. 189

6. 19 索引

新

6. 17. 6

ファイナルにおける抗議

- a) 抗議は選手またはコーチの挙手によって即座に行われなければならない。
- b) すべての抗議はファイナル抗議ジュリーによって即断されなければならない(3. 12. 3. 7、6. 16. 7 および6. 17. 1. 10. d)。ファイナル抗議ジュリーの裁定は最終であり、上訴はできない。
- c) ファイナルにおける抗議が採用されない場合、2点または2ポイントの減点が科せられなければならない。ファイナルでは抗議料は課せられない。

6. 17. 7

表彰式

金、銀、銅メダリストを讃える表彰式は各ファイナル後できるだけ迅速に、3. 5. 8 に従って、行われなければならない。表彰式の進行のISSF基準は、ISSF本部に用意されている、ファイナル射場と表彰式の認定ガイドラインに示されている。

← 削除

6. 20

索引

6. 19

ISSFドレスコード

選手、コーチ、役員の服装に関するISSFレギュレーション  
ISSFルールGTR6. 7. 6 “公式スポーツ行事に適したマナーに則った服装で射場に現れることは選手、コーチおよび 役員の責任であ



る。選手と役員の服装はISSFドレスコード（ISSF本部に用意してある）を遵守しなければならない。”

このISSFルールは、この文書で規定されるISSFドレスコードを根拠としている。

#### 6.19.1

##### 通則

全てのスポーツは自身が大衆やメディアに提供するイメージに影響を受ける。特にオリンピックスポーツでは、選手や役員がプロフェッショナルなイメージを提供し、そのスポーツの誉れとなっているかによって判断をされる。射撃のスポーツとしての成長および新たな参加者やファンを引きつけることの可能性は、オリンピックムーブメントにおけるその将来の地位と同様、選手や役員が大衆やメディアにどのように映るかによって大いに影響を受ける。ISSFは、6.7.6の実行のための特別の規定およびガイドラインを提供するためにISSFドレスコードを発行した。

#### 6.19.2

##### 選手の服装規定

#### 6.19.2.1

練習、予選、本選、ファイナルで選手が着用する全ての服装は、国際的なスポーツの競技大会に参加する選手として適切なものが着用されなければならない。この服装はオリンピックスポーツのアスリートとしての射撃選手の良いイメージを伝えなければならない。

#### 6.19.2.2

表彰式やその他のセレモニーでは、選手は公式ユニフォームまたは公式トレーニングウェア（上下は練習やウォームアップ用のユニフォームでスポーツ靴を履く）の着用を要求される。

団体戦では全チームメンバーは適切なナショナルユニフォームを着用しなければならない（6.7.6.2）。

#### 6.19.2.3

ライフル選手は、7.5に記載されたライフル服装規定を遵守しなければならない。射撃ズボンおよび射撃シューズを着用しない場合、競技会での服装はこのISSFドレスコードを遵守しなければならない。

#### 6.19.2.4

ピストル選手は8.5に記載されたピストル服装規定を遵守しなければならない。

#### 6.19.2.5

ショットガン選手は9.12.1に記載されたショットガン服装規定を遵守しなければならない。

#### 6.19.2.6

ISSFライフル、ピストル、ショットガン服装規定が意図するとこ

- ろは、競技会では選手は各国、各国オリンピック委員会、各国競技団体の色やエンブレムを含んでいたり付いているスポーツタイプの服を着なければならないということである。競技中に着用する適切な服装には、各国競技団体や各国オリンピック委員会が支給したトレーニングスーツ、トラックスーツ、ウォームアップユニフォームなどが含まれる。
- 6.19.2.7 競技中や表彰式で着用が禁止される衣服はブルージーンズ、ジーンズまたはスポーツに適さない色の似たようなズボン、迷彩柄の衣服、ノースリーブのシャツ、短すぎる半ズボン（膝上15cm以内：6.7.6.1参照）、ほつれた切り口の半ズボン、全てのタイプのサンダル、つぎあてや穴のあいているズボン、スポーツに適さないまたは不適切なメッセージ（宣伝の禁止：6.12.1参照）の書かれたシャツやズボンが含まれる。スポーツに適した色とは各国のユニフォームの色のことである。ナショナルカラーを身につけない場合、避けるべきスポーツに適さない色とは、迷彩柄、格子柄、カーキ色、オリーブ色、褐色である。
- 6.19.2.8 衣服の着替えは指定された場所で行わなければならない、競技場内（射座や射場内）では禁止される。
- 6.19.2.9 全ての服装は、メーカーおよびスポンサーマークの表示に関するISSF商業上権利、スポンサーシップ、広告ルールを遵守しなければならない。
- 6.19.3 役員の服装規定
- 6.19.3.1 ISSFドレスコードはISSFジュリーや射場役員やショットガンレフリーを含む各国の技術役員にも適用される。
- 6.19.3.2 競技役員はその責務に対するプロフェッショナルとしての本質を反映するような服装を着用しなければならない。職務中のジュリーは赤のジュリーベスト（ISSF本部で購入できる）を着用しなければならない。職務中のショットガンレフリーは青のレフリーベスト（ISSF本部で購入できる）を着用しなければならない。
- 6.19.3.3 競技役員は、6.19.2.7に記述されている禁止された服装を着用することはできない。
- 6.19.4 カメラマンやTVカメラマンの服装規定
- 6.19.4.1 派遣されるカメラマンやTVカメラマンが競技場に立ち入る際には、

旧

新

- 公衆の面前で働いているとの観点から、ISSFドレスコードを尊重しなければならない。
- 6.19.4.2 カメラマンやTVカメラマンは、ノースリーブのシャツ、ほつれた切り口の体操またはランニング半ズボンを着るべきではない。半ズボンをはく際には靴下と靴をはかなければならない。
- 6.19.4.3 競技場内で仕事をするカメラマンは、ISSFの発行する、カメラマン用の公式ビブベストを着用しなければならない。カメラマンベストにはISSFロゴマークが付けられ、ISSFロゴマークよりも大きくないスポンサーマークを1つ入れることができる。カメラマンベストには番号が入れられており、それによってフォトコーディネーターやテクニカルデレゲートがカメラマンの個別認識ができるようになっている。
- 6.19.4.4 競技場内で仕事をするTVカメラマンは、TVカメラマン用の公式ビブベストを着用しなければならない。TVカメラマンベストにはISSFロゴマークが付けられ、その前後には容易に見分けのつく番号が入れられており、それによってTVカメラマンの個別認識ができるようになっている。
- 6.19.4.5 カメラマンとTVカメラマンは、競技場内で仕事をするときは、広告表示の入った他のベストやジャケットを着ることはできない。
- 6.19.5 施行手順
- 6.19.5.1 ISSF用具検査、ライフル、ピストル、ショットガンジュリーはISSF服装規定およびISSFドレスコードを守らせる責任がある(6.7.6.3)。
- 6.19.5.2 ISSF選手権大会の期間中、ISSFジュリーは1回目の違反から違反を正す事を求める文書警告を与える。文書警告を受けた選手が服装違反を正す(服装を換える)ことがない場合、失格となる。ジュリーは、通常、用具検査や練習中に警告を与える。ジュリーは、着替えのための十分な時間がない場合、着替え前に選手に事前練習シリーズやステージ(ショットガンと25mピストル)をする許可を与えることができる。いかなる選手も本選またはファイナルの競技または表彰式に不適切なまたは禁止された衣服を着たまま参加することは許されない。

旧

新

		<u>6.19.5.3</u>	<u>競技前および競技中に、ジュリーはドレスコードまたは広告表示違反の通知および違反の矯正要請のために、ISSFドレスコード/広告表示違反警告書（GTRの章末の様式の中にある）を使用することになる。</u>
p. 255	挿入（このことにより7.4.1.1~7.4.1.6が7.4.1.2~7.4.1.7に変わる）	→ <u>7.4.1.1</u>	<u>単発式ライフル 300mスタンダードライフル種目を除き、1発ごとに手動で装填しなければならない単発式のライフルのみが使用できる。300mスタンダードライフル種目に使用できるライフルは、国際軍事スポーツ評議会（CISM）で使用の認められたもので、事前に用具検査を受けるものとする。</u>
p. 257	7.4.2.1.1	<u>7.4.2.1.1</u>	条文番号の削除
p. 258	7.4.2.6	7.4.2.6	ウエイト a) 銃身ウエイトは銃身軸を中心とした半径30mmの円内に収まるもののみ許される。銃身ウエイトを銃身に沿って動かすことはできる。 b) その他のウエイトもストックの許容寸法内に入っていないとしない。 c) <u>バットプレートの下部から前方および側方に突出する装置またはウエイトは禁止される。</u>

p. 261

7.4.5.1

## バットプレートとバットフック

次に示す制限に合うバットフックが使用できる。

- ・バットフックは、銃身軸線に対して直角をなし通常肩にあたるバットプレートの凹みの最深部に接する線を基準として、後方153mm (A) を超えてはならない。
- ・そのフックのカーブの外側の全長は178mm (B) を超えてはならない。
- ・バットプレートの上端の部分の突出は、銃身軸線に対して直角をなし通常肩にあたるバットプレートの凹みの最深部に接する線を基準として、後方25mmを越えてはならない。
- ・バットプレートの下部から前方に向かって突出するような装置やウエイトは禁止される。

7.4.5.1

## バットプレートとバットフック

a) 次に示す制限に合うバットフックが使用できる。

- b) バットフックは、銃身軸線に対して直角をなし通常肩にあたるバットプレートの凹みの最深部に接する線を基準として、後方153mm (A) を超えてはならない。
- c) そのフックのカーブの外側の全長は178mm (B) を超えてはならない。
- d) バットプレートの上端の部分の突出は、銃身軸線に対して直角をなし通常肩にあたるバットプレートの凹みの最深部に接する線を基準として、後方25mmを越えてはならない。
- e) バットプレートの下部から前方**または側方**に向かって突出するような装置やウエイトは禁止される。

p. 262

挿入 (このことにより7.4.5.3が7.4.5.4になる) →

7.4.5.3ピストルグリップピストルグリップのどの部分も、手の甲に触れたり支えたりできるように拡張したり作成することは許されない。

p. 263

7.5.1

## ライフル競技用服装の全般規格

7.5.1.2

すべてのライフル競技用の服装はISSF選手権大会において1回のみ検査される。用具検査証明書は検査済み用具と一緒に保管されていなければならない。どのような検査済み用具や服装も改変を加えたならば、再検査を受けなければならない。

7.5.1.3

すべての射撃ジャケット、射撃ズボンおよび射撃グローブは、自由に曲がる材質で通常の射撃条件下で固さや厚さが増加するなどの物理的性質が変化しない物で作られていなければならない。すべての裏地、芯材、充て物も同じ仕様を満たさなければならない。裏地や芯材は通常

7.5.1

## ライフル競技用服装の全般規格

7.5.1.1

すべての射撃ジャケット、射撃ズボンおよび射撃グローブは、自由に曲がる材質で通常の射撃条件下で固さや厚さが増加するなどの物理的性質が変化しない物で作られていなければならない。すべての裏地、芯材、充て物も同じ仕様を満たさなければならない。裏地や芯材は通常の仕立て縫い以外の、キルティング、クロスステッチ、のり付け等の方法で表地に付けられてはならない。すべての裏地や芯材は衣服の一部として測定されなければならない。

7.5.1.2どのISSF選手権大会においても全てのライフル種目を通じて選

## 旧

の仕立て縫い以外の、キルティング、クロスステッチ、のり付け等の方法で表地に付けられてはならない。すべての裏地や芯材は衣服の一部として測定されなければならない。

- 7.5.1.4 どのISSF選手権大会でもすべての種目を通じて選手1人に対し、射撃ジャケット、射撃ズボン、射撃シューズの各々1組だけが用具検査により承認される。もしも選手が用具検査で承認されたライフル用服装（ジャケット、ズボン、シューズ）を2組以上もっているならば、その選手はこの大会で使用するものを申告しなければならない。この項は選手が通常のズボンや運動靴を使用することをどの種目、どの姿勢でも妨げるものではない。射撃ジャケットが競技会での使用が承認されるためには、全ての姿勢（伏射、立射、膝射）で使用可能で、その他の全ての規格に合致していなければならない。用具検査で不合格となった服装は、改変を施してから、再検査を受けることができる。
- 7.5.1.5 用具検査の前および検査中に、服装に加熱または他の方法によって一時的な細工を加えることはできない。服装に恒久的な改変を施すことはできる。この目的のために服装を用具検査室から持ち出すことはできるし、その服装を用具検査に再提出することもできる。各選手権大会の期間中に2回目またはそれ以上の服装検査を受ける際には再検査料として20,000ユーロが課される。
- 7.5.1.6 用具検査後、服装に細工（スプレーなど）を施した場合、ルールに従い罰則が科せられる。
- 7.5.1.7 半ズボンで競技を行う場合、その半ズボンの裾は膝の中心から上方15cmより長くななければならない。

## 新

手1人に対し、射撃ジャケット、射撃ズボンの各々1組だけを使用することができる。すべての射撃ジャケットおよび射撃ズボンは、ISSF用具検査によって発行され、ISSFデータベースに登録されたシリアルナンバーを示すタグがなければならない。タグのないジャケットやズボンは、タグを付け、ISSFデータベースに登録するために、選手によって用具検査室に持ち込まなければならない。各選手には1着のジャケットおよび1本のズボンのみ登録することができる。ISSFのタグの付いたジャケット2着以上またはズボンを2本以上もっている選手は、これからの大会においてどの用具を使うのかをISSF用具検査に通告し、各々通告した1つを残しその他の用具についてはISSFのタグをはずさなければならない。登録したジャケットやズボンを変更したい選手は、新たな用具にタグを付け、以前の用具のタグをはずすために、用具検査室にそれらの用具を運び込まなければならない(6.7.7.1.f)。競技後検査に選ばれた選手については、登録された服装が登録された選手によって使用されていたかを検査において確認しなければならない。

7.5.1.3 どの種目、どの姿勢においも、通常のズボンや運動靴を使用することはできる。半ズボンで競技を行う場合、その半ズボンの裾は膝の中心から上方15cmより長くななければならない。

7.5.1.4 サンドルはどのようなタイプのものであっても履くことはできない。選手は、自分の使用する服装がこれらのルールを遵守していることを保証する責任を負う。用具検査室は、公式練習日からライフルの競技が終了する日まで、選手の服装の自主検査のために開けられていなければならない。選手には、これらのルールを遵守していることを確認するために、競技に先立ち、用具検査をすることを推奨する。大会に向けジャケットやズボンを準備する際、選手は気温や湿度など気象条件による測定値の変化を考慮したゆとりを作っておかななければならない。

7.5.1.5 競技後検査は予選および本選の後に、ルールが遵守されているか確認するために、すべての服装について行われる(6.7.9)。

旧

p. 265

7.5.3.2 靴底は全体がつま先の部分で曲げることができる同一の素材で作られていなければならない。選手は取り外し可能な中敷きを使うことができるが、その中敷きもつま先の部分で曲げることができなければならない。

p. 267

7.5.4.5 ジャケットの横の部分（サイドパネル）には、立射姿勢でライフルを支える腕の肘の下に水平方向の縫い目を配置してはならない。

p. 271

7.5.8.3 **ライフルレスト**  
 撃発と撃発の間でライフルを置くためにライフルレストを使用する場合、ライフルレストのどの部分も、その選手の立射姿勢の肩の高さよりも、高くないようにして使用できる。立射ではライフルレストスタンドを射撃テーブルの前方へ置いてはならない。ニーリングロールをライフルレストとして使用することはできる。ライフルレストにライフルを置いている間、それが隣接の選手に邪魔になっていないか注意を払わなければならない。また、安全性の確保のため、ライフルレストにライフルを置いている間、選手はライフルを保持していなければならない。

p. 272

7.5.8.7 バイザーと防止

新

7.5.3.2 靴底は全体がつま先の部分で曲げることができる同一の素材や成分で全体が作られていなければならない。選手は取り外し可能な中敷きを使うことができるが、その中敷きもつま先の部分で曲げることができなければならない。

7.5.4.5 ジャケットの横の部分（サイドパネル）には、立射姿勢でライフルを支える腕の肘の下にあたる肘の先端から上部70mm下部20mmの範囲のシームフリーゾーンに縫い目を配置してはならない。シームフリーゾーンの検査は射撃ジャケットを着用し、ボタンを全て閉めた状態で、ライフルを持って立射姿勢をとったうえで行われなければならない。

7.5.8.3 **ライフルレスト**  
 撃発と撃発の間でライフルを置くためにライフルレストを使用する場合、ライフルレストのどの部分も、その選手のライフルを持った立射姿勢の肩の高さよりも、高くないようにして使用できる。立射ではライフルレストスタンドを射撃テーブルの前方へ置いてはならない。ライフルレストにライフルを置いている間、それが隣接の選手に邪魔になっていないか注意を払わなければならない。また、安全性の確保のため、ライフルレストにライフルを置いている間、選手はライフルを保持していなければならない。

7.5.8.7 バイザーと帽子

旧

新

p. 273

- 7.6.1.1 伏射
- 7.6.1.2 立射
- 7.6.1.3 膝射

- 7.6.1.2 伏射
- 7.6.1.3 立射
- 7.6.1.1 膝射

p. 276

7.8.2 示点円板を用いて点数表示を行う場合、直径200～250mmの薄い円板で、一面が黒色もう一面が白色に塗られ、通常その白色面の中心から30～50mm右側に細い棒が取り付けられた物を用いなければならない。

7.8.2 示点円板を用いて点数表示を行う場合、直径200～500mmの薄い円板で、一面が黒色もう一面が白色に塗られ、通常その白色面の中心から30～50mm右側に細い棒が取り付けられた物を用いなければならない。

p. 278

- 7.9 ライフル種目一覧表
- |           |          |    |        |
|-----------|----------|----|--------|
| 10mエアライフル | 紙標的の競技時間 | 男子 | 1時間15分 |
|           |          | 女子 | 50分    |

- 7.9 ライフル種目一覧表
- |           |          |    |                 |
|-----------|----------|----|-----------------|
| 10mエアライフル | 紙標的の競技時間 | 男子 | 1時間 <u>30</u> 分 |
|           |          | 女子 | <u>60</u> 分     |

注1：15分間の準備および試射時間は印刷された競技開始時刻の前に始まる。

注1：15分間の準備および試射時間は印刷された競技開始時刻の前に始められなければならない。

p. 297

- 8.4.1.1 グリップ：グリップの寸法や詳細についてはピストル規格一覧表とピストル外形図を参照。  
 ・グリップのみならずピストルのいかなる部分であっても手以外の部分に触れるように拡張、構築することはできない。通常の射撃姿勢をとったとき、手首は明瞭に自由でなければならない。ブレスレット、腕時計、リストバンド、または類似の物をピストルを持つ手や腕に付けることは禁止される。

- 8.4.1.1 グリップ：グリップの寸法や詳細についてはピストル規格一覧表とピストル外形図を参照。  
 a) グリップのみならずピストルのいかなる部分であっても手以外の部分に触れるように拡張、構築することはできない。通常の射撃姿勢をとったとき、手首は明瞭に自由でなければならない。ブレスレット、腕時計、リストバンド、または類似の物をピストルを持つ手や腕に付けることは禁止される。



## 旧

- ・可変式グリップは、選手の手に合わせてときにそれらのルールに適合していれば使用を許される。用具検査後にこれらのルールに反するように調整を変えてはならない。

### 8.4.1.3

サイト:ピストル規格一覧表を参照。

- ・オープンサイトのみが許される。光学レンズ、鏡、スコープ、レーザービーム、プロジェクタードットサイトなどの電子的狙点装置などは禁止される。
- ・撃発機構を作動するようにプログラムされた照準装置はどのような物も禁止される。
- ・照星、照門の保護カバーは許可されない。
- ・矯正用レンズまたはフィルターはピストルに取り付けてはならない。
- ・矯正用レンズ、めがね、フィルターまたは色つきレンズを選手がかけることはできる。  
フィルターまたは色つきレンズは矯正用レンズまたはめがねに取り付けてもよい。

## p. 298

### 8.4.1.4

電気式トリガーは次の条件で使用を許される。

- ・すべての構成部品はピストルのフレームまたはグリップの中にしっかりと内装されていること。
- ・引金はピストルを保持している手によって操作されること。
- ・すべての構成部品は用具検査の際にはピストルに装着されていること。
- ・ピストルは、すべての構成部品が装着された状態で、寸法および重量がルールに適合するものであること。

## 新

- b) 可変式グリップは、選手の手に合わせてときにそれらのルールに適合していれば使用を許される。グリップの調整は、これらのルールに適合しているか確認のため、競技後検査で調べられる。

### 8.4.1.3

サイト

- a) オープンサイトのみが許される。光学レンズ、鏡、スコープ、レーザービーム、プロジェクタードットサイトなどの電子的狙点装置などは禁止される。
- b) 撃発機構を作動するようにプログラムされた照準装置はどのような物も禁止される。
- c) 照星、照門の保護カバーは許可されない。
- d) 10mエアピストルおよび25mピストルはサイトを付けた状態で基準箱の中に入らなければならない。
- e) 矯正用レンズまたはフィルターはピストルに取り付けてはならない。
- f) 矯正用レンズ、めがね、フィルターまたは色つきレンズを選手がかけることはできる。  
フィルターまたは色つきレンズは矯正用レンズまたはめがねに取り付けてもよい。

### 8.4.1.4

電気式トリガーは次の条件で使用を許される。

- a) すべての構成部品はピストルのフレームまたはグリップの中にしっかりと内装されていること。
- b) 引金はピストルを保持している手によって操作されること。
- c) すべての構成部品は用具検査係が検査する際にはピストルに装着されていなければならない。
- d) ピストルは、すべての構成部品が装着された状態で、寸法および重量がルールに適合するものであること。

旧

8.4.1.5 ケースキャッチャーは、装着した状態でルール内(寸法と重量)であれば使用を許される。この場合、用具検査係は用具検査票に記載しなければならない。

p. 300

8.4.3 25mピストルの規格  
 ・選手は、故障が起きた場合を除いて、その種目のすべてのステージやシリーズで同じ銃を使わなければならない。  
 ・銃身軸線は、普通の射撃姿勢をとったときにピストルをにぎった手の(親指と人差指の間)の上を通らなければならない。  
 ・銃身の長さとは次の部分を測定したもの(ピストル規格一覧表参照)。

半自動式	銃口から遊底前面まで(銃身と薬室の合計)
リボルバー式	銃身のみ(弾倉を除く)

8.4.3.1 25mリムファイアピストル  
 ピストル規格一覧表に従う、単発式を除く、口径5.6mm(.22口径)のロングライフル弾用の薬室を備えたリムファイアピストルが使用できる。

8.4.3.2 25mセンターファイアピストル  
 ピストル規格一覧表に従う、単発式を除く、口径7.62mmから9.65mm(.30口径から.38口径迄)のセンターファイアピストルが使用できる。

8.4.3.3 50mピストル  
 ・口径5.6mm(.22口径)のロングライフル弾用の薬室を備えたリムファイアピストルが使用できる。  
 ・50mピストルにおいては、ハンドカバーが許されるが、それで手首を覆ってはならない。

新

8.4.1.5 ケースキャッチャーは、装着した状態でルール内(寸法と重量)であれば使用を許される。

8.4.3 10m、25m、50mピストルの規格  
8.4.3.1 25mリムファイアおよびセンターファイアピストル  
 a) 選手は、故障が起きた場合を除いて、その種目のすべてのステージやシリーズで同じ銃を使わなければならない。  
 b) 銃身軸線は、普通の射撃姿勢をとったときにピストルをにぎった手の(親指と人差指の間)の上を通らなければならない(ピストル外形図参照)。  
 c) 銃身の長さとは次の部分を測定したもの(ピストル規格一覧表参照)。

半自動式	銃口から遊底前面まで(銃身と薬室の合計)
リボルバー式	銃身のみ(弾倉を除く)

8.4.3.2 25mリムファイアピストル  
 ピストル規格一覧表に従う、単発式を除く、口径5.6mm(.22口径)のロングライフル弾用の薬室を備えたリムファイアピストルが使用できる。

8.4.3.3 25mセンターファイアピストル  
 ピストル規格一覧表に従う、単発式を除く、口径7.62mmから9.65mm(.30口径から.38口径迄)のセンターファイアピストルが使用できる。

8.4.3.4 50mピストル  
 a) 口径5.6mm(.22口径)のロングライフル弾用の薬室を備えたリムファイアピストルが使用できる。

旧

新

p. 306

8.7.6.2

#### 25m種目の特別ルール

- ・すべての25m種目において、時間は緑ランプの点灯の（または標的が選手に正対する）瞬間に始まり、赤ランプの点灯した（または標的が回転を始めた）ときに終わる。
- ・標的の回転またはランプの点灯は、射撃線の後方に位置している標的操作係によって操作させることができる。標的操作係は選手の邪魔にならない位置で、しかも射場役員が見え、指示が聞こえる場所にいないといけない。また、標的は射場役員のリモートコントロールシステムによる操作でもよい。
- ・LOAD（弾の装填） すべての25m種目の練習および本選においては、“LOAD（ロード）”の号令により、1個の弾倉または銃に5発以内の弾を込めることができる。弾以外のものを弾倉またはシリンダーに装填してはならない。
- ・選手が“LOAD（ロード）”の号令で、合計5発を越える弾を込めた、または2個以上の弾倉に弾を込めた場合、そのシリーズの得点に、超過した弾1発につき、または超過した弾倉1個につき2点の減点が科せられなければならない。
- ・“LOAD（ロード）”の号令前の撃発については、失格としなければならない。
- ・UNLOAD（抜弾） すべての種目において、シリーズまたはステージが終わった後、“UNLOAD（アンロード）”の号令がかけられなければならない。シリーズが終了したとき（銃器故障を除く）、

8.4.3.5

- b) 50mピストルにおいては、ハンドカバーが許されるが、それで手首を覆ってはならない。

#### 10mエアピストル

ピストル規格一覧表およびピストル外形図に従う、口径4.5mm（.177口径）の圧縮空気、炭酸ガス式のエアピストルが使用できる。

8.7.6.2

#### 25m種目の特別ルール

- a) すべての25m種目において、時間は緑ランプの点灯の（または標的が選手に正対する）瞬間に始まり、赤ランプの点灯した（または標的が回転を始めた）ときに終わる。
- b) 標的の回転またはランプの点灯は、射撃線の後方に位置している標的操作係によって操作させることができる。標的操作係は選手の邪魔にならない位置で、しかも射場役員が見え、指示が聞こえる場所にいないといけない。また、標的は射場役員のリモートコントロールシステムによる操作でもよい。
- c) LOAD（弾の装填） すべての25m種目の練習および本選においては、“LOAD（ロード）”の号令により、1個の弾倉または銃に5発以内の弾を込めることができる。弾以外のものを弾倉またはシリンダーに装填してはならない。
- d) 選手が“LOAD（ロード）”の号令で、ピストルに装填が許された弾数（シリーズまたは完射シリーズの）を越える弾を込めた、または2個以上の弾倉に弾を込めた場合、そのシリーズの得点に、超過した弾1発につき、または超過した弾倉1個につき2点の減点が科せられなければならない。
- e) “LOAD（ロード）”の号令前の撃発については、失格としなければならない。
- f) UNLOAD（抜弾） すべての種目において、シリーズまたはステージが終わった後、“UNLOAD（アンロード）”の号令がか

旧

または号令があった場合、どんな状況でも、ただちに選手はピストルから弾を抜かなければならない。

p. 310

8.8.2.1

超過弾（25m）

選手が標的上にピストル種目一覧表（8.11）の規程弾数以上を撃った場合、または、速射ステージで1回の標的の出現に2発以上射撃した場合、その標的上の最高得点から順に無効として、採点されなければならない。

- ・また、超過弾1発につき2点ずつそのシリーズの得点から減点されなければならない。
- ・このペナルティは選手が5発を超える弾数を装填したことによる2点の減点に追加して科せられる。
- ・25mピストル、25mセンターファイアピストル種目の速射ステージでの1回の標的の出現に2発射撃した場合は、その事例が発生するごとに2点ずつ減点されなければならない。

p. 317

8.9.4.5

許容できる故障に対する手順 — 25mラピッドファイアピストルと25mスタンダードピストル

- ・すでに発射された弾の数は記録されなければならない、シリーズは再射することができる。
- ・選手はいずれの再射シリーズでも標的に向け5発発射しなければならない。再射シリーズで発射されなかったり、標的に当たらなかった弾は0点として採点されなければならない。
- ・2度目の故障が生じた場合、選手は再び再射をすることはできない（しかし発射されなかった弾が0点と採点されることはない）。選手はその種目の残りの射撃を継続することはできる。

新

けられなければならない。シリーズが終了したとき（銃器故障を除く）、または号令があった場合、どんな状況でも、ただちに選手はピストルから弾を抜かなければならない。

8.8.2.1

超過弾（25m）

選手が標的上にピストル種目一覧表（8.11）の規程弾数以上を撃った場合、または、速射ステージで1回の標的の出現に2発以上射撃した場合、その標的上の最高得点から順に無効として、採点されなければならない。

- a) また、超過弾1発につき2点ずつそのシリーズの得点から減点されなければならない。
- b) このペナルティは選手が認められた弾数を超える弾数を装填したことによる2点の減点に追加して科せられる。
- c) 25mピストル、25mセンターファイアピストル種目の速射ステージでの1回の標的の出現に2発射撃した場合は、その事例が発生するごとに2点ずつ減点されなければならない。

8.9.4.5

許容できる故障に対する手順 — 25mラピッドファイアピストルと25mスタンダードピストル

- a) 25mラピッドファイアピストルまたは25mスタンダードピストルの競技中、許容できる故障が生じた場合、すでに発射された弾の得点は故障採点票（様式RFPMまたは様式STD P）の1行目に記録される。
- b) 選手はいずれの再射シリーズでも標的に向け5発発射しなければならない。再射シリーズの後、発射された弾の得点は故障採点票の2行目に記録される。再射シリーズで発射されなかったり、標的に当たらなかった弾は0点として採点されなければならない。

## 旧

- ・得点－25mラピッドファイアピストル：2回のシリーズで各標的に発射された弾痕のうち最も低い点数の合計が得点として記録されなければならない。
- ・得点－25mスタンダードピストル：標的上の最も低い点数から5発の合計点が記録されなければならない。
- ・選手が許された1回の再射でシリーズを完射することができなかった場合、故障の起こったシリーズまたは再射シリーズで発射できた弾数のうち多い弾数分、最も低い点数から合計し、得点としなければならない。

p. 318

8.9.4.6

許容できる故障に対する手順－25mピストルと25mセンターファイアピストル

精密射撃ステージおよび速射ステージ

- ・発射された弾の数は記録され、シリーズは完射できる。
- ・完射シリーズの弾は次のシリーズの開始後ただちに（精密射撃ステージでは1発につき1分間の射撃時間が与えられる）、または、標的が最初に正対したとき（速射ステージ）に撃たなければならない。
- ・発射されなかったり、標的に当たらなかった弾は0点として採点されなければならない。
- ・5発のシリーズは通常の方法で採点されなければならない。

## 新

- c) 再射シリーズ中に2度目の故障が生じた場合、まずは再射シリーズで発射された弾の得点を故障採点票の2行目に記録する。次に故障の起きたシリーズと再射シリーズそれぞれの発射弾数を確認し記録する。そして発射弾数の多いシリーズ方に発射されなかった弾の0点を記入する。
- d) 5発の合計点をそのシリーズの得点として決定し、故障採点票の3番目の行（最終得点）に記録する。
  - ・ R F P M : 各標的上の最も低い点数の合計
  - ・ S T D P : 標的上の最も低い点数から5発の合計

8.9.4.6

許容できる故障に対する手順－25mピストルと25mセンターファイアピストル

精密射撃ステージおよび速射ステージ

- a) 発射された弾の数は記録され、シリーズは完射できる。
- b) 完射シリーズの弾はすぐ次のシリーズで撃たなければならない。精密射撃ステージでは1発につき1分間の射撃時間が与えられる。速射ステージでは標的が最初に正対したときから撃たなければならない。
- c) 発射されなかったり、標的に当たらなかった弾は0点として採点されなければならない。
- d) 5発のシリーズは通常の方法で採点されなければならない。
- e) 完射シリーズの報告には射場事故報告書（IR）を用いること。

旧  
ピストル種目一覧表 (ISSF)

種目	男 ／ 女	発射 弾数	1枚の標的への 撃ち込み数 (紙標的のみ)		紙標 的の 試射 的数	試射弾数	採点 および 紙標的 の 治痕	時間制限 (EST以外)	準備 および 試射 時間	
			G1, G2, G3+	G3, G4						
10m エア ピスト ル	男 女	60 40	1		国内 適用 規定 参照	無制限 準備 および 試射 時間内	審査室 にて	1時間15分 (1時間30分) 50分 (60分)	15分間	
50m ピスト ル	男	60	5			2	無制限 準備 および 試射 時間内	審査室 にて	1時間30分 (1時間45分)	15分間
25m ラピッ ドファ イア ピスト ル	男	60	1 各選手 各ステージ毎 に 新標的 (1+6発毎)			5	各ステージ において 8秒射 5発 1シリーズ	各 シリー ズ の後	8秒射、6秒射、4 秒射各2回の5発シ リーズの合計30発 の ステージを2回	3分間
25m ピスト ル	女	60	15			1	各ステージに おいて 5発 1シリーズ	各 シリー ズ の後	精密ステージ 5分間で5発シリー ズを6回の合計30 発 速射ステージ 速射で5発シリー ズを6回の合計30発	精密 ステージ 5分間  速射 ステージ 3分間
25m センタ ーファ イア ピスト ル	男	60	10							
25m スタン ダード ピスト ル	男	60	15							

新  
ピストル種目一覧表 (ISSF)

種目	男 ／ 女	発射 弾数	1枚の標的への 撃ち込み数 (紙標的のみ)		紙標 的の 試射 的数	試射弾数	採点 および 紙標的 の 治痕	時間制限 (EST以外)	準備 および 試射 時間	
			G1, G2, G3+	G3, G4						
10m エア ピスト ル	男 女	60 40	1		国内 適用 規定 参照	無制限 準備 および 試射 時間内	審査室 にて	1時間15分 (1時間30分) 50分 (60分)	15分間	
50m ピスト ル	男	60	5			2	無制限 準備 および 試射 時間内	審査室 にて	1時間30分 (1時間45分)	15分間
25m ラピッ ドファ イア ピスト ル	男	60	1 各選手 各ステージ毎 に 新標的 (1+6発毎)			5	各ステージ において 8秒射 5発 1シリーズ	各 シリー ズ の後	8秒射、6秒射、4 秒射各2回の5発シ リーズの合計30発 の ステージを2回	3分間
25m ピスト ル	女	60	<u>10</u>			1	各ステージに おいて 5発 1シリーズ	各 シリー ズ の後	精密ステージ 5分間で5発シリー ズを6回の合計30 発 速射ステージ 速射で5発シリー ズを6回の合計30発	精密 ステージ 5分間  速射 ステージ 3分間
25m センタ ーファ イア ピスト ル	男	60	10							
25m スタン ダード ピスト ル	男	60	<u>10</u>							

旧

新